

短期大学学生に関する調査研究
-2011年 JCSS 調査全体集計結果報告-

2012年10月

一般財団法人 短期大学基準協会

JCIRP 短期大学調査チーム

(研究代表:山田 礼子)

目次

巻頭言

まえがき	1
第1部 図と文章で示す集計結果	3
1 性別	3
2 年齢	3
3 修業年限	4
4 入学年度	4
5 在学状況(学年等)	5
6 居住形態	5
7 通学時間	6
8 高校での成績	6
9(1) 出身校の種別(国立・公立・私立)	7
9(2) 共学・別学の別	7
10 経済的援助の有無(日本学生支援機構の奨学金)	8
11 入学後に経験したことがあることから	8
12 進学理由と重要度	9
13 留学生か否かの別	10
14 特別な学習支援(学習補助、補習授業等)の経験と希望	11
15 入学後における諸活動の経験の程度	13
16 専門分野の別	15
17 進学志向	15
18 今年度諸活動に費やした時間	16
19 今年度経験したことがあるの程度	17
20 同年齢者と比較しての自己評価	18
21 設備やサービスに対する満足度	20
22 教員の提供する支援活動の程度	22
23 入学時からの能力、知識の変化	23
24 入学後の適応度	25
25 成績	26
26 人生の価値観	27
27 女性の生き方についての考え	29
28 就職予定者における現況	30
29 将来希望する職業及びキャリア	31
30 キャリア選択において重視する要素	32

31	教育全般に対する満足度.....	33
32	志望順位.....	35
33	進学時の入試方式.....	36
34	受験決定時期.....	38
35-1	家族内における高等教育機関卒業者の有無.....	39
35-2	家族内における高等教育機関卒業者の続柄.....	40
36	学生生活の充実度.....	41
37	選び直せるとしたときの進学志望.....	41
第2部	集計一覧.....	42
1	性別.....	42
2	年齢.....	42
3	修業年限.....	42
4	入学年度.....	42
5	在学状況(学年等).....	42
6	居住形態.....	43
7	通学時間.....	43
8	高校での成績.....	43
9(1)	出身校の種別(国立・公立・私立).....	43
9(2)	共学・別学の別.....	43
10-1	経済的援助の有無(日本学生支援機構の奨学金).....	44
10-2	経済的援助の有無(地方自治体の奨学金).....	44
10-3	経済的援助の有無(民間団体の奨学金).....	44
10-4	経済的援助の有無(短大の奨学金や授業料免除).....	44
10-5	経済的援助の有無(その他).....	44
11-1	単位を取得できなかった授業の有無.....	45
11-2	補習授業の履修経験の有無.....	45
11-3	人権や民族に関する授業の履修経験の有無.....	45
11-4	女性学の授業の履修経験の有無.....	45
11-5	リーダー養成やキャリア開発訓練への参加経験の有無.....	45
11-6	海外研修プログラムへの参加経験の有無.....	45
11-7	他高等教育機関での履修科目の卒業単位算入の有無.....	46
11-8	他高等教育機関からの転学の有無.....	46
12	進学理由と重要度.....	46
13	留学生か否かの別.....	47
14	特別な学習支援(学習補助、補習授業等)の経験と希望.....	47
15	入学後における諸活動の経験の程度.....	48

16	専門分野の別.....	49
17	進学志向.....	49
18	今年度諸活動に費やした時間.....	49
19	今年度経験したことがらの程度.....	50
20	同年齢者と比較しての自己評価.....	51
21	設備やサービスに対する満足度(「わからない」を欠損値扱い).....	52
	設備やサービスに対する満足度(「わからない」を有効回答扱い).....	52
22	教員の提供する支援活動の程度.....	53
23	入学時からの能力、知識の変化.....	54
24	入学後の適応度.....	55
25	成績.....	55
26	人生の価値観.....	56
27	女性の生き方についての考え.....	57
28	就職予定者における現況.....	58
29	将来希望する職業及びキャリア.....	59
	将来希望する職業及びキャリア(上位10位まで).....	60
30	キャリア選択において重視する要素.....	60
31	教育全般に対する満足度(「わからない」を欠損値扱い).....	61
	教育全般に対する満足度(「わからない」を有効回答扱い).....	61
32	志望順位.....	62
33	進学時の入試方式.....	62
34	受験決定時期.....	63
35-1	家族内における高等教育機関卒業者の有無.....	64
35-2	家族内における高等教育機関卒業者の続柄.....	64
36	学生生活の充実度.....	65
37	選び直せるとしたときの進学志望.....	65
第3部 参加校の意見.....		66

巻頭言

本冊子は、平成 23 年度に短期大学基準協会調査研究委員会が、「短期大学における主体的改革・改善に資する自己評価方法に関する調査研究」の課題のもと、「短期大学における学習効果測定法の開発」として、山田礼子同志社大学教授をリーダーとする「大学生調査研究プログラム」(JCIRP)の研究開発と協力して実施した、第 4 回「短期大学学生調査 2011 年 (JJCSS2011)」の全体集計結果であり、本調査の最終報告に当たるものです。

本調査では、平成 20 年度の初回以来の過去 3 回の調査では予算枠の関係から調査件数に上限を設けて実施してきましたが、参加校に個別経費部分の実費負担をいただくことによって調査件数に上限を設けず実施し、希望されるすべての短期大学に参加していただくことができました。また、これによって各短大にとっては、今後は本調査の毎年の継続的な利用が可能になりました。

平成 23 年 10 月 17 日に本調査の概要を説明した文書及び調査票の見本を全会員校に送付、参加を募った結果、昨年度の 24 校を大幅に上回る 34 校の参加を得ることができました。参加短大に対しては、11 月 24 日に調査票を発送し、12 月末に同票の回収、その後データ入力作業等の整理を行い、平成 24 年 2 月に短期大学ごとの集計結果を参加短期大学にご提供いたしました。さらに、得られたデータ全体を用いての分析が JCIRP 内に組織された「短期大学学生調査チーム」により進められ、8 月には全体集計結果を中間報告として公表いたしました。そして、その後、参加各校からアンケートにより本調査に関するご意見を伺い、その結果を加えて最終報告書としたのが本冊子です。

なお、今回の調査では、2 月に各短期大学にご提供いたしましたデータの一部に入力上の間違いがあり、その発見、修正がおくれ、多大なご迷惑をおかけしましたことを、改めてお詫び申し上げますとともに、今後はこうしたことが 2 度と起こらないよう万全のチェック体制を構築いたしますこととお誓い申し上げます。

この調査では、参加した個々の短期大学は自校のデータを得るほか、それと全体集計結果や山田教授の研究チームメンバーによる全体データを用いた学術研究とを組み合わせることで、吟味された項目によって精度の高い自己評価資料が得られることから、認証評価への対応に役立つでしょう。また、標準化された調査に参加することによって、国際的な比較を含む他機関とのベンチマークが可能となり、さらにはマーケティングへの利用などのメリットがあると考えられます。そして、全体結果自体は短期大学の実績を社会に示すことになると考えられます。

調査研究委員会では今回の結果を踏まえ、改良版の「短期大学学生調査 2012 年 (JJCSS2012)」を実施することとしています。本調査にご協力いただきました関係各位に感謝するとともに、本報告書が様々な形で活用され、本調査が発展して日本の高等教育の展開に資するようになることを願ってやみません。

平成 24 年 10 月
調査研究委員会委員長
館 昭

まえがき

山田 礼子（調査研究委員会委員／同志社大学）

私ども JCIRP(Japanese Cooperative Institutional Research Program)研究グループは一般財団法人短期大学基準協会のご協力と支援を得て、日本版短期大学学生調査(JJCSS=Japanese Junior College Student Survey)を開発し、2008年に初めての調査を実施して以来、毎年調査を実施し、2012年に予定している調査を含めると5回目の調査になる。

本最終報告書は、2011年の調査結果についてまとめたものである。2009年からは、中間報告時点で参加短期大学からの調査や調査結果に対するアンケートによるフィードバックをいただき、その結果を最終報告書に反映するような工夫を行った。2011年調査も同様に、中間報告書では、グラフや表による単純集計の表示と解説を中心に構成し、本最終報告書には、参加校からのアンケートによるフィードバックが反映されている。

調査は2011年の11月下旬から12月下旬の約1カ月間で実施され、参加短期大学は、34校、参加人数は9637名であった。調査の募集およびデータの整理、集計、分析は短期大学基準協会とその中に設けられた短期大学基準協会調査研究委員会が実施しているが、調査対象学年の選定については、全数調査ではなく、調査に参加する短期大学にお任せしている。そのため、現時点では、回答者の内訳については、若干1年生と2年生とそれ以外の割合が偏っている傾向が見られることをご容赦いただければ幸いである。

2011年調査のデータ分析から短期大学生の特徴的な回答として、①満足度や知識・技能の獲得、短大での適応などの設問で「対人関係」に関する項目に関して、高い割合で肯定的な回答を示している。②受験に関して、第1志望で入学している短大生が大多数である。また高校3年時の早い段階で現在の短大への進学を決めている。③職業やキャリアについて、短大生は早い段階で志望する職業を決めている等が挙げられる。

短期大学学生調査(JJCSS)は、これまでに JCIRP 研究グループが実施してきた大学生調査(JCSS=Japanese College Student Survey)と新入生調査(JFS=Japanese Freshman Survey)の知見をベースに開発した調査である。短期大学は四年制大学と比較すると2年間という短い課程のなかでの学生の成長を検証していくことが必要となる。しかし、逆に2年間という教育課程であるがゆえに、教育目標を設定することにより、カリキュラムの改革に着手しやすい。それゆえ、四年制大学以上に間接調査としての学生調査結果を教員が共有し、教育方法やカリキュラム改革に結果を利用することが可能であると期待できる。

それでは、私どもが開発した間接評価としての学生調査全体のプログラムを紹介し、短期大学学生調査の開発とその意義について述べておきたい。Japanese Cooperative Institutional Research Program(JCIRP)(大学生調査研究プログラム)は新入生調査(JFS)、大学生調査(JCSS)と短期大学学生調査(JJCSS)の3つの学生調査からなるプログラムである。JFSとJCSSは、カリフォルニア大学ロサンゼルス校高等教育研究所(UCLA-HERI)の許諾を得て、HERIが行ってきたCIRP Freshman SurveyとCollege Student

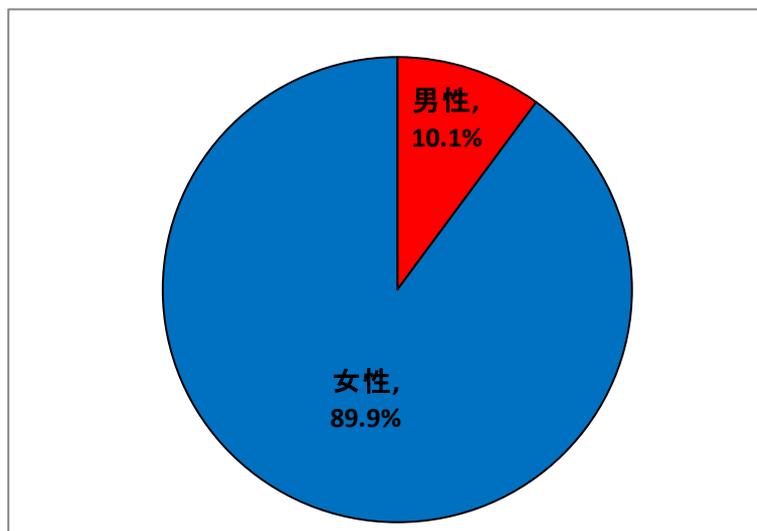
Survey(CSS)をもとに日本用の独自項目を加えて開発されている。JJCSS は JCSS などを参照しながら、日本で短期大学用に独自に開発した調査である。それぞれの調査票は、学生の入学以前の背景、大学や短期大学での経験、満足度、獲得したスキルや能力、生活習慣、自己評価、価値観等の項目から構成されており、自大学・短期大学の学生の全体像が把握できるようになっている。JCIRP プログラムに参加した場合、参加大学・短期大学の個別調査データを返却することにより、参加機関にとっては、当該大学・短期大学の学生に関する詳細なデータが得られるとともに、同じ調査に参加した他大学を含む全体の学生の統計データとの比較が可能になる。このことにより、①大学教育改革のために役立つ、②入学志願のマーケティングに役立つ、③ア krediyteeshon（認証評価）対策として役立つ、④ベンチマークとして役立つ、⑤国際比較ができる、⑥共同研究に参加できるというようなメリットがある。

調査結果から得られた学生の傾向から、より学生が授業に活発に参加できるように授業の形態を考えていく資料にもなる。JJCSS 調査の開発に当たっては、四年制大学生調査との違いを把握しながら、質問項目を考察してきた。そうした短期大学の特徴に応じた質問項目が短期大学生の特徴にも反映されているとみることができよう。

今回 JJCSS に参加された短期大学あるいは今後 JJCSS への参加を企図している短期大学は、是非 JJCSS の分析結果、あるいはデータを利用していただき、より良い短期大学の教育プログラム、学生支援プログラム、そして教員の教育方法の改善など FD にもつなげていただきたいと開発者一同願っている。開発して間もないことから、まだまだ不十分な点が少なくないが、より多くの短期大学の参加と継続して調査をすることを通じて、精緻な分析と短期大学の実態に基づいた調査を開発し、多くの短期大学が利用できるような標準化した調査にしていきたい。

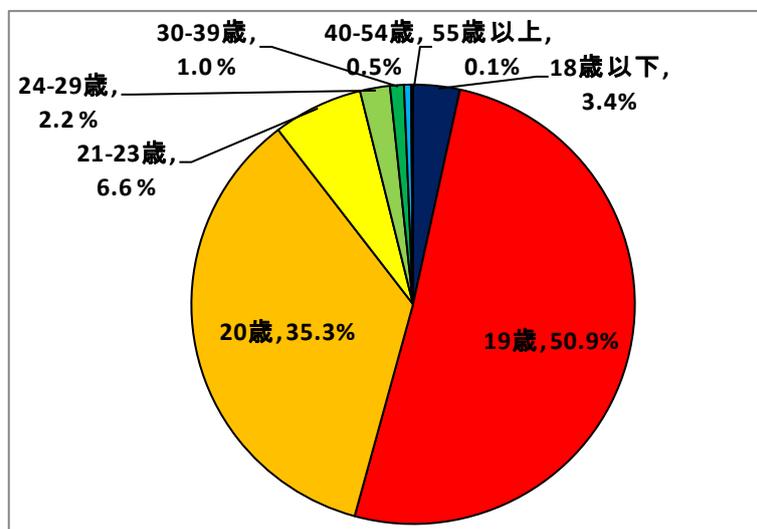
第1部 図と文章で示す集計結果

〔1〕 あなたの性別をお答えください。



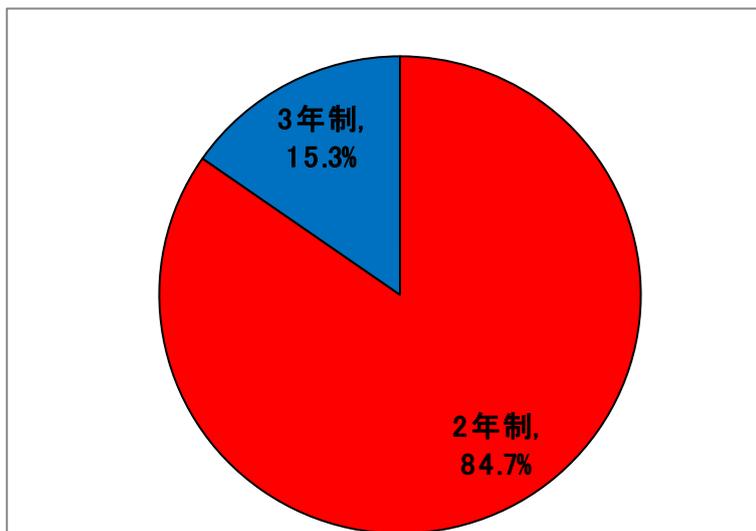
短大生のうち、89.9%が女性であり、男性は10.1%である。

〔2〕 今年度（2011年4月～2012年3月）、あなたは何歳になりますか。



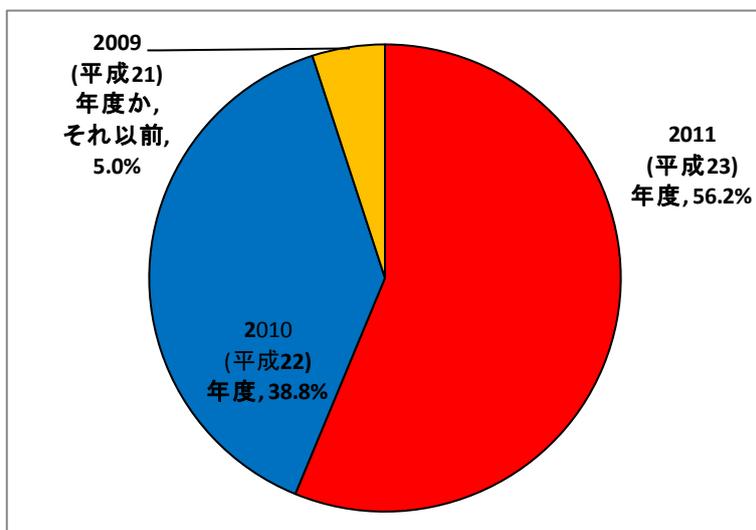
短大生の年齢は、19歳と20歳が多く、全体の86.2%を占めている。21歳以上の短大生も10.4%いる。

[3] あなたの所属する学科の修業年限を教えてください。



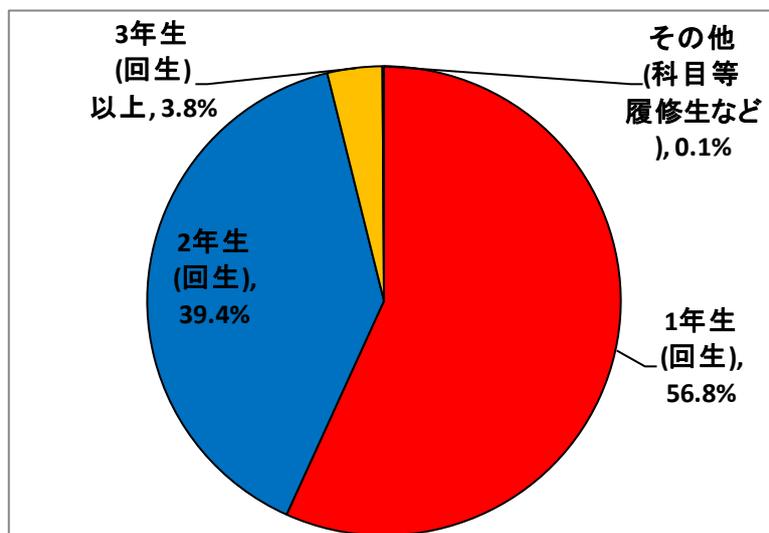
2年制の短大生が84.7%、3年制の短大生が15.3%である。

[4] あなたは本学に何年度に入学しましたか。



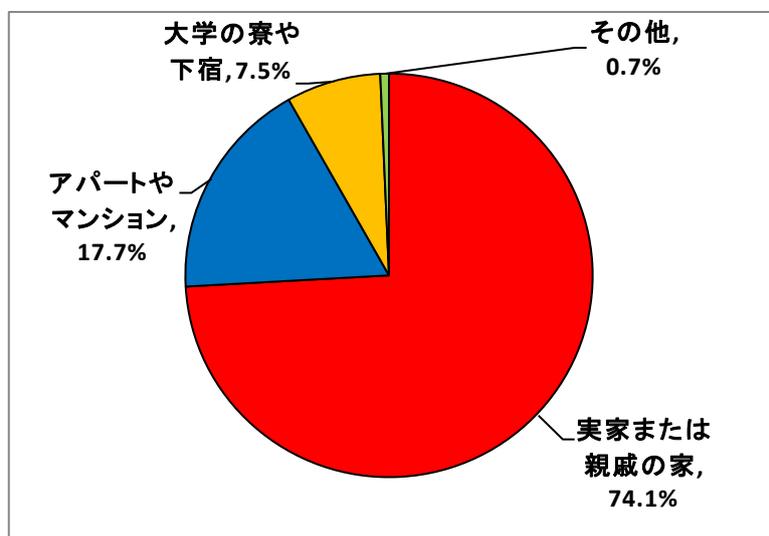
2011年度入学者が56.2%、2010年度入学者が38.8%となっている。2009年度以前入学者も5.0%いる。

[5] あなたの現在の在学状況を教えてください。



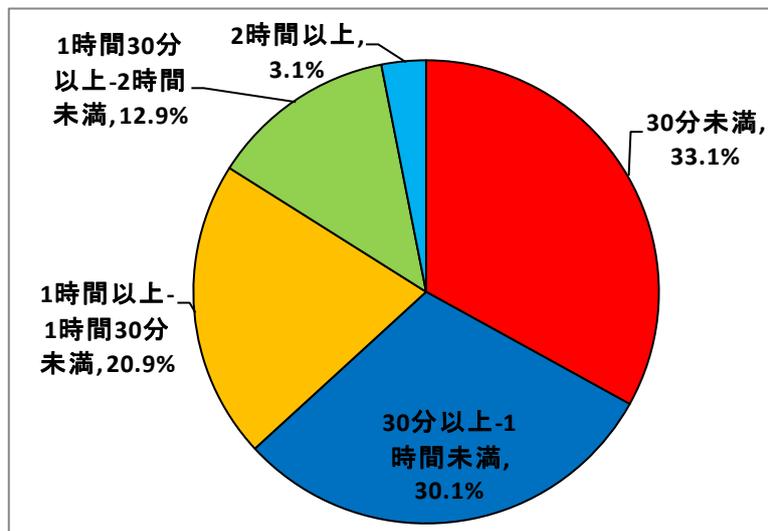
1年生(回生)が56.8%、2年生(回生)が39.4%であった。回答した多くの短大生が正規学生であり、その他に該当する科目等履修生などの短大生はほとんど見られない。

[6] あなたの現在の住まいは次のうちどれですか。



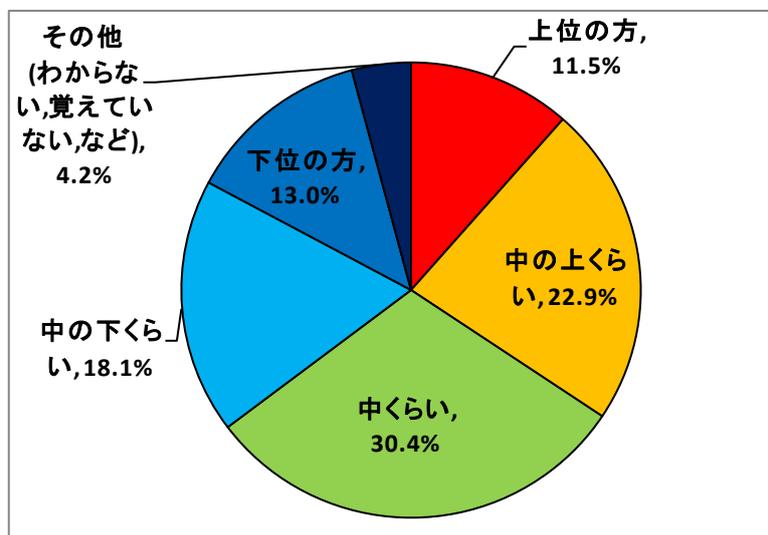
実家または親戚の家に住んでいる短大生は74.1%おり、実家または親戚の家は主要な住まいとなっている。

[7] あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。



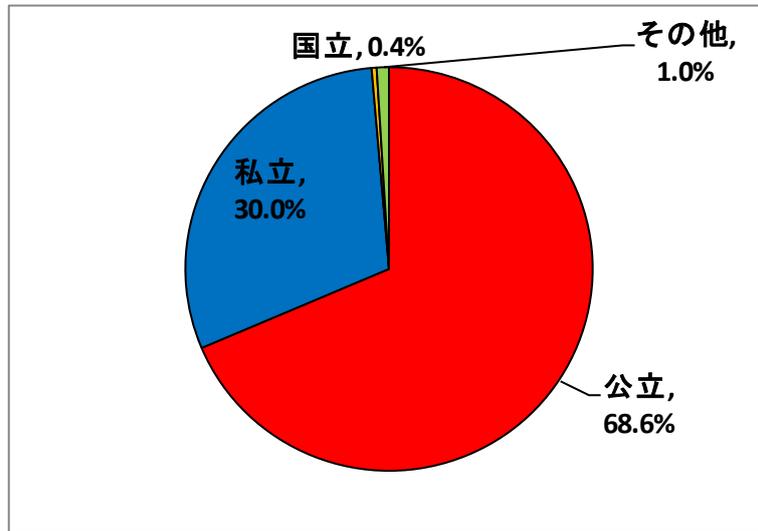
通学時間の分布を見ると、30分未満の短大生が33.1%、30分以上1時間未満の短大生が30.1%、1時間以上の短大生が36.9%となっている。1時間以上かけて通学する短大生が多く、これは、実家または親戚の家から通う短大生が多いことが影響していると予測できる。

[8] あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。



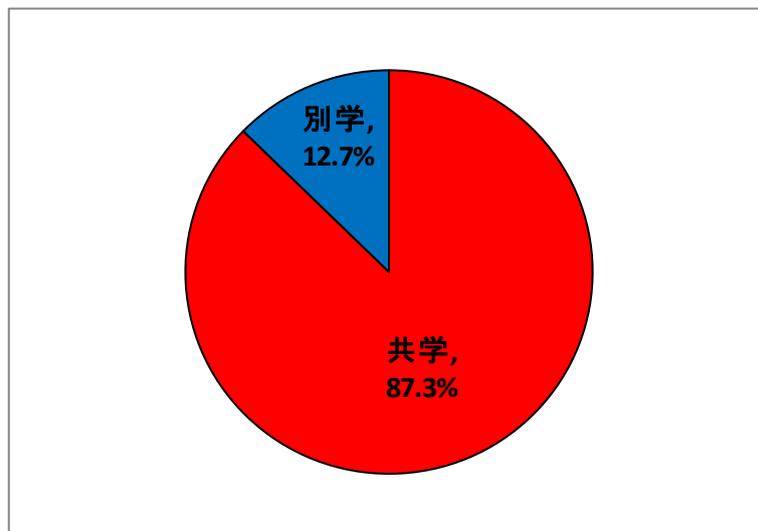
高校の成績を中くらいと回答した者が最も多く30.4%となっている。上位の方と中の上くらいを合わせると34.4%となり、高校の成績が比較的良かった短大生が多い傾向にある。

[9(1)] あなたの高校は公立（県立・市立など）、私立、国立のどれでしたか。



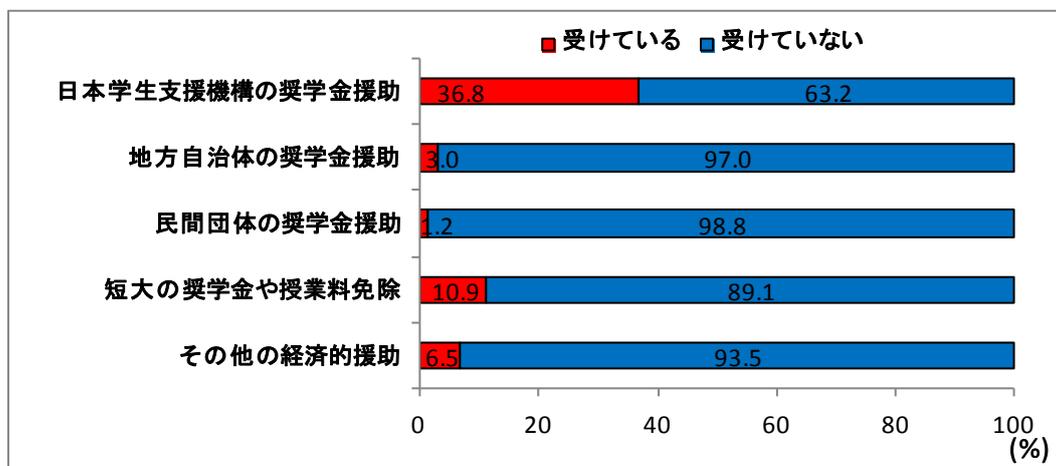
短大生の 68.6%は、公立高校の出身である。

[9(2)] あなたの高校は男女共学でしたか、別学でしたか。



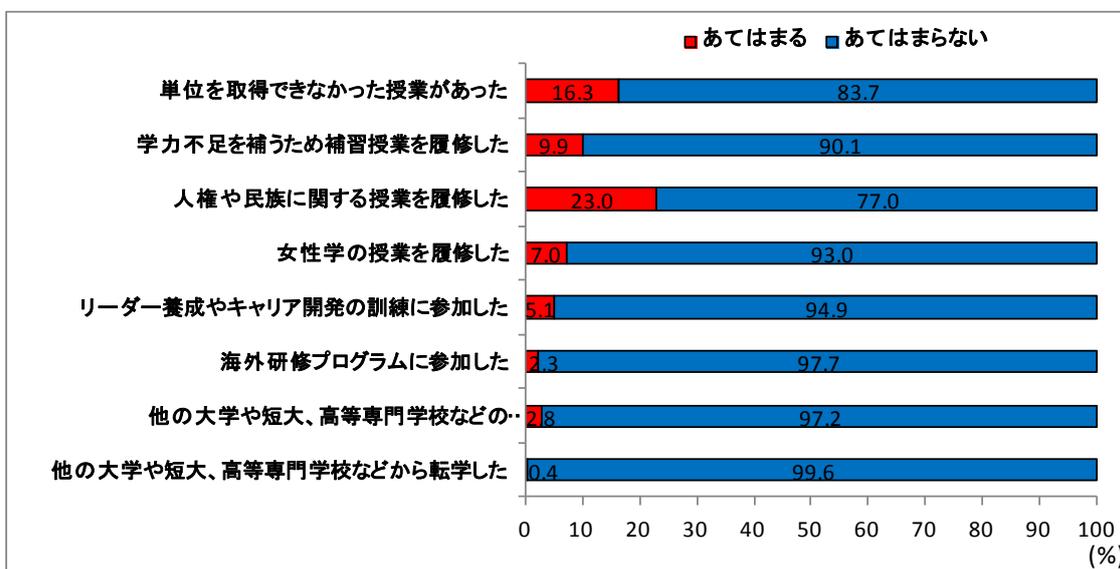
短大生の 87.3%は、男女共学の高校を卒業している。

[10] あなたは奨学金（貸与を含む）や授業料免除など経済的な援助を受けていますか。



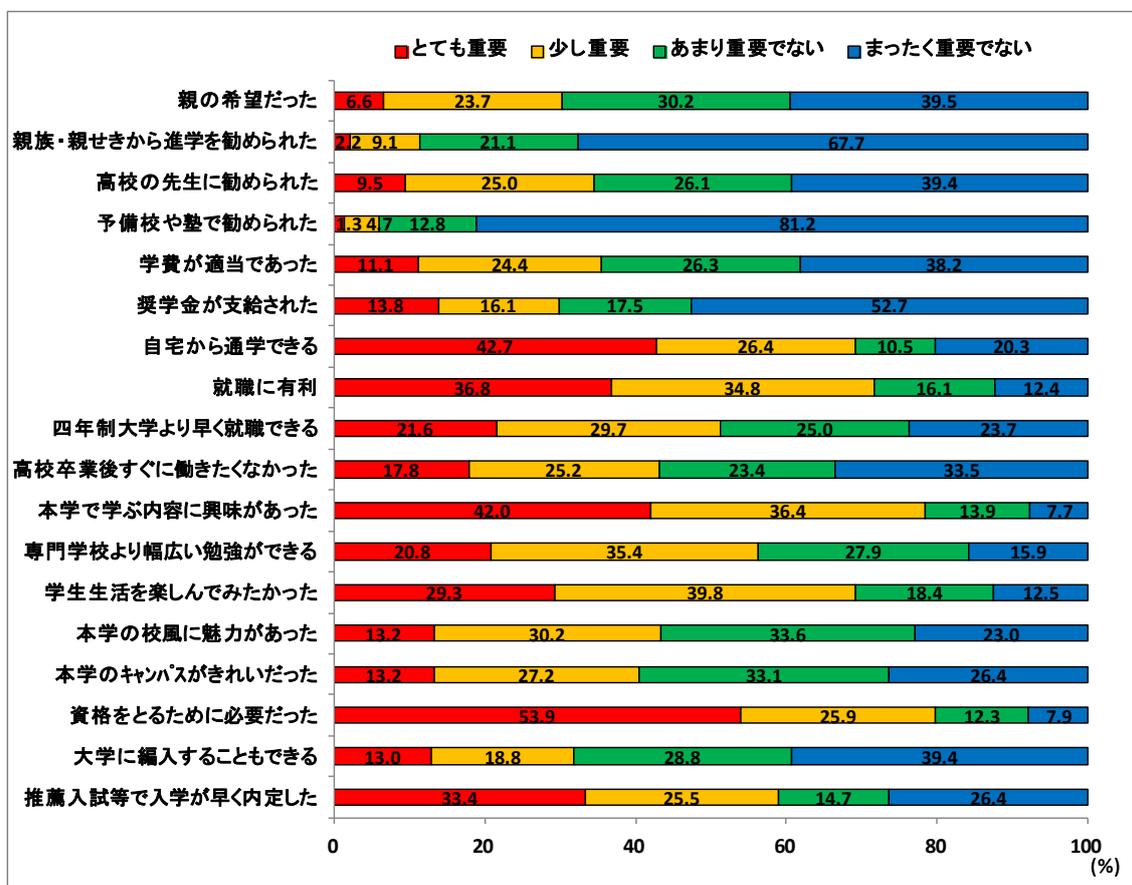
問 10 は、奨学金などの経済的援助に関する問いである。日本学生支援機構の奨学金の利用が最も多く、36.8%の短大生が援助を受けている。続いて、短大の奨学金や授業料免除を受けている短大生が 10.9%見られる。その他の奨学金受給者は数%程度にとどまっている。

[11] 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか。



問 11 は、短大生が短大に入学して以降、経験したことがあることがらを質問している。「はい」と回答した短大生が多い項目を見ると、「入学以来、人権や民族に関する授業を履修した」(23.0%)、「入学以来、単位を取得できなかった授業があった」(16.3%)、「入学以来、学力不足を補うため補習授業を履修した」(9.9%)となっている。その他の項目については、いずれも数%程度しか見られず、大半の短大生が「いいえ」と回答をしている。

[12] あなたが本学に進学した理由として、次のことがらほどの程度重要でしたか。

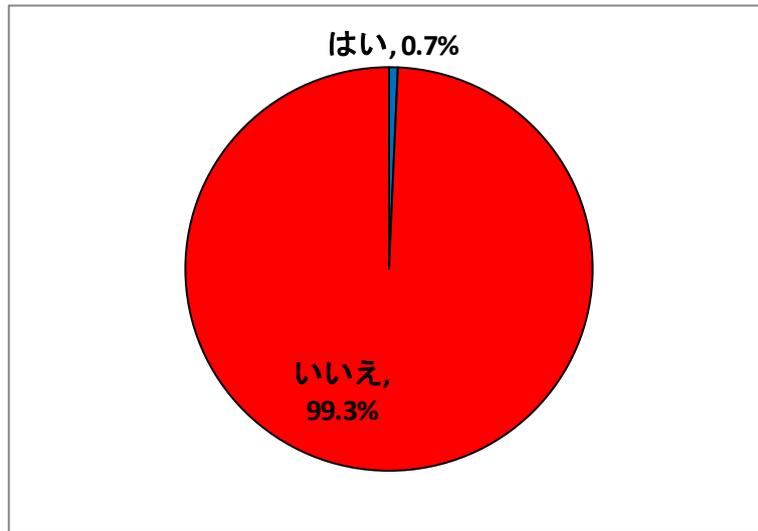


問 12 は、現在通っている短大への進学を決めた理由として、どのような要素が重視されているかどうかを質問したものである。進学を決めた理由として、「少し重要」と「とても重要」を合わせたパーセンテージが最も多かったものは、「資格を取るために必要だった」(79.8%)であった。続いて、「本学で学ぶ内容に興味があった」(78.4%)、「就職に有利」(71.6%)、「自宅から通学できる」(69.1%)、「学生生活を楽しんでみたかった」(69.1%)となっていた。

「とても重要」のパーセンテージだけを見ると、最も重視されていたのは「資格を取るために必要だった」(53.9%)である。続いて、「自宅から通学できる」(42.7%)、「本学で学ぶ内容に興味があった」(42.0%)となっていた。

一方、「あまり重要でない」と「まったく重要でない」を合わせたパーセンテージが多く、重視されていない項目を見ると、「予備校や塾で勧められた」(94.0%)、「親以外の親族・親せきから進学を勧められた」(88.8%)が見られる。また、「奨学金が支給された」も 70.2%であり、進学要因として重視されていない傾向が見られた。

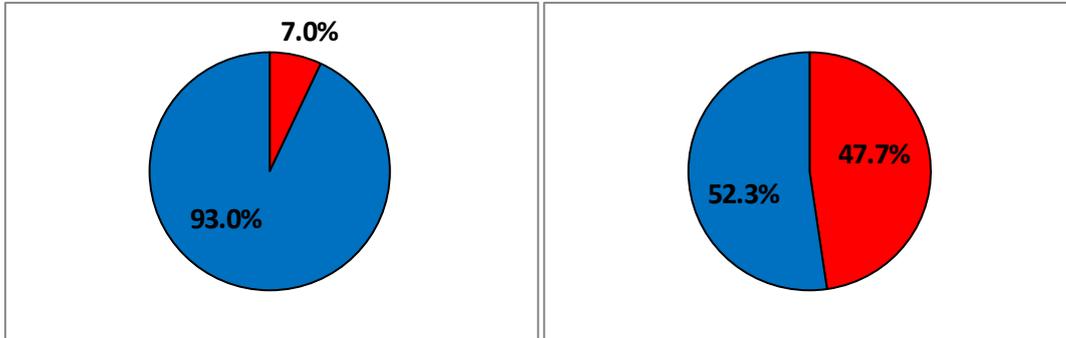
[13] あなたは留学生ですか。



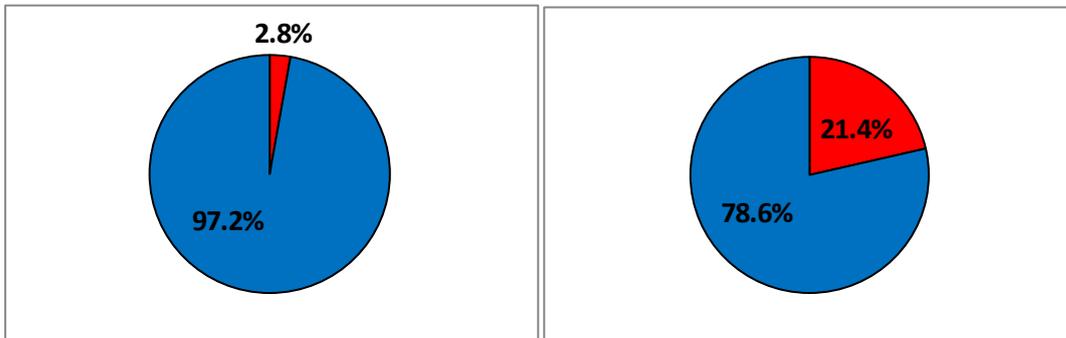
短大生のうち留学生は0.7%であった。

〔14〕あなたは次の科目について、学習補助や補習授業など特別な学習支援を受けていますか。また、そのような支援を受けたいと思いますか。

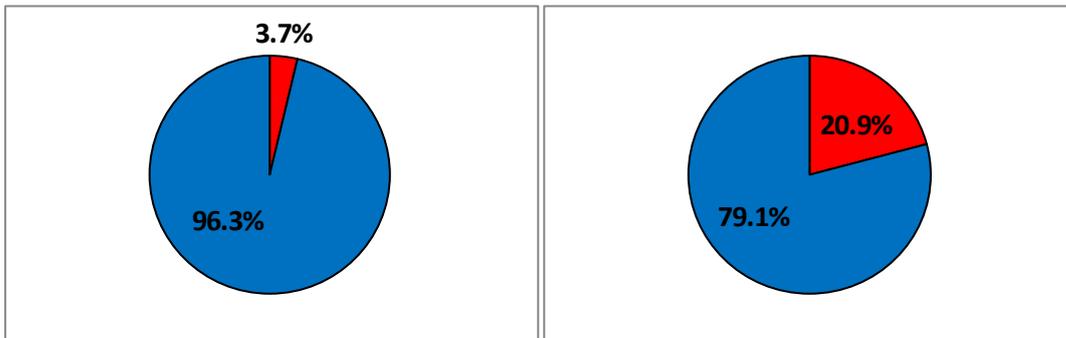
1. 文章表現



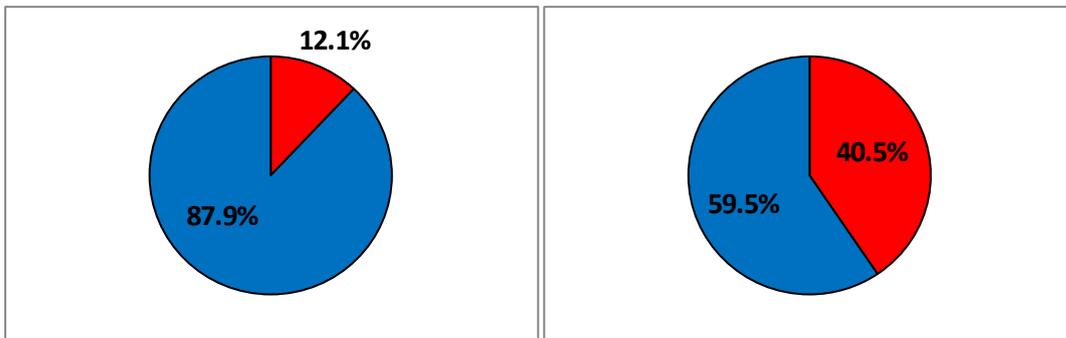
2. 数学



3. 理科



4. 英語

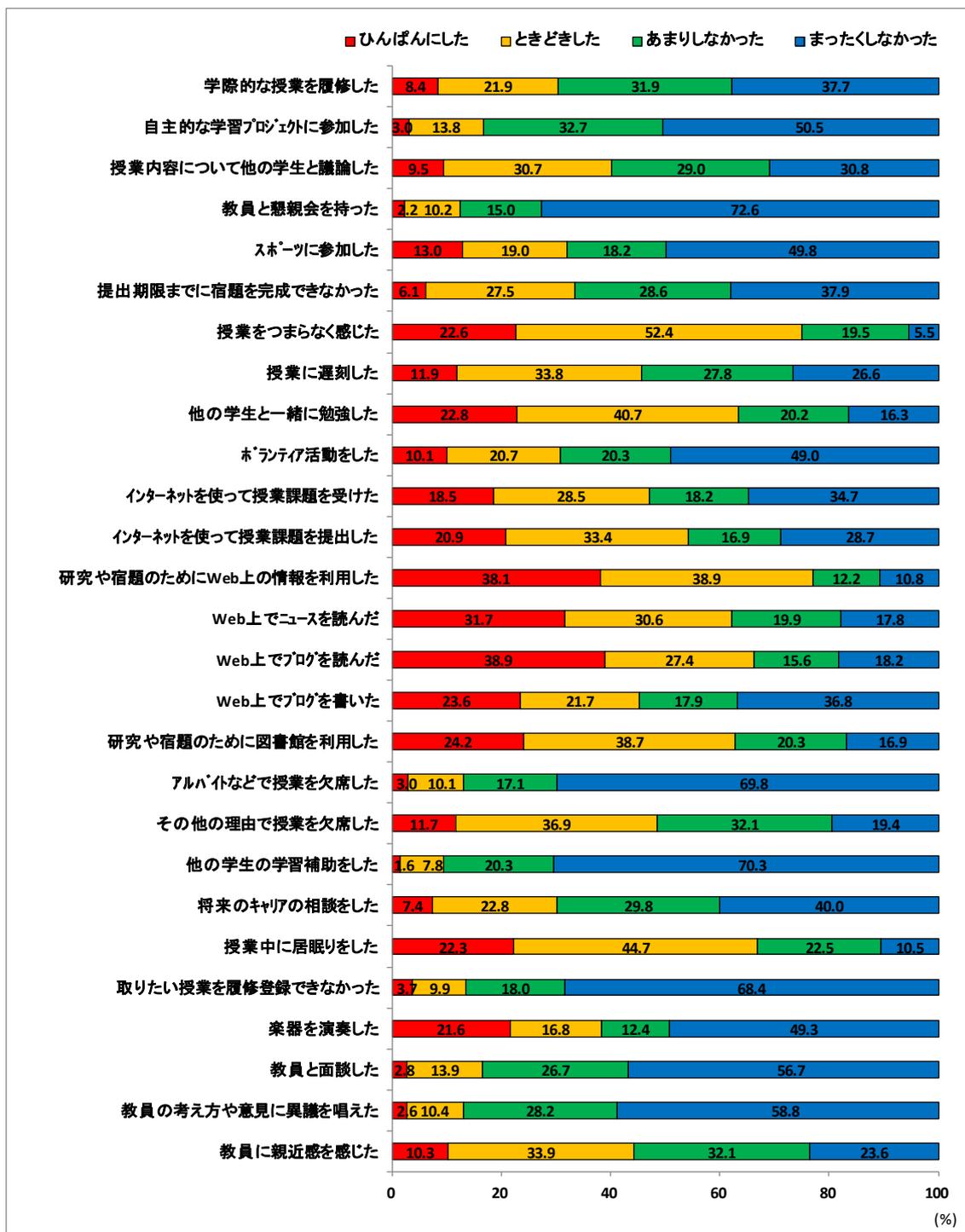


■ 特別な学習支援を受けている
■ 特別な学習支援は受けていない

■ 特別な学習支援を受けたい
■ 特別な学習支援は受けたくない

問 14 は、科目別の学習支援の現状と、今後そうした支援を希望するかを質問したものである。学習支援の現状を見ると、いずれの科目においてもわずかなパーセンテージにとどまっており、英語のみが 12.1%とやや高い数値になっている。しかし、今後学習支援を受けたい者の割合は、数学と理科で 20%程度だが、英語では 40.5%、文章表現は 47.7%となっており、一定の学習支援ニーズが見られる。

[15] 入学してから、あなたは次の項目をどれくらいしましたか。

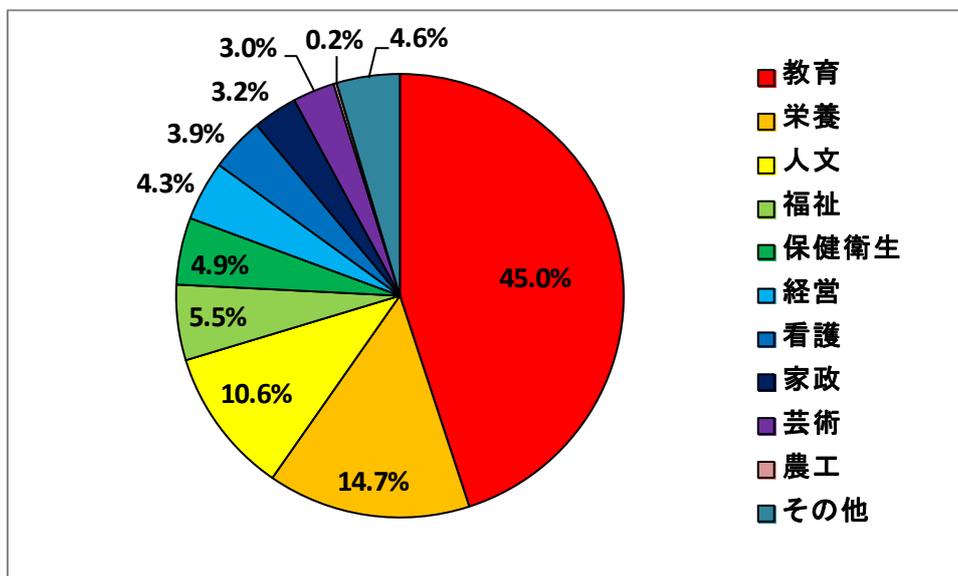


問 15 の中で最も大きな問題と見られるものは、「授業をつまらなく感じた」である。「ときどきした」と「ひんぱんにした」を合わせると 75.0%に及んでいる。また、「授業の内容について他の学生と議論した」は、「ときどきした」と「ひんぱんにした」を合わせると 40.2%であり、「授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた」は 13.0%に留まっており、必ずしもインタラクティブな授業が十分になされているとは言えないだろう。ただし、教員に親近感をまったく感じなかった短大生は 23.6%とそれほど多くないことを考えれば、授業内容の改善や向上によって、より短大生の興味関心を引く授業を展開できるのではないだろうか。

Web 利用に関する項目では、「研究や宿題のために Web 上の情報を利用した」(77.0%)、「Web 上でニュースを読んだ」(62.3%) など、大半が Web を利用した情報収集を行っていることが示された。ただし、これらの事項をまったくしなかった短大生も 10%程度いる。

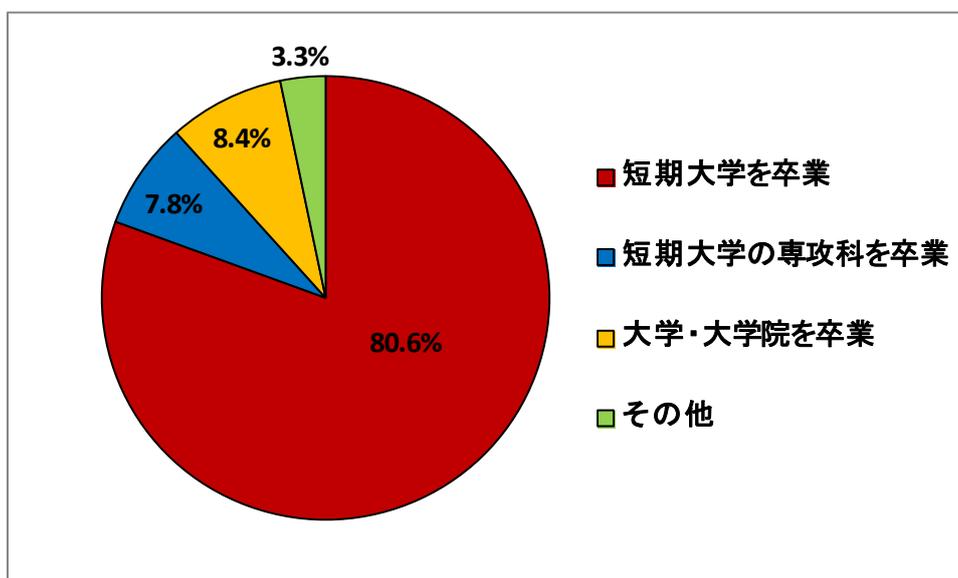
本項目から明らかになったもう 1つの問題点は、「取りたい授業を履修登録できなかった」の項目である。まったくしなかった短大生が 68.4%にとどまっている。短大生の志向は毎年異なり、短大の持つ学習資源や、教員の配置といった問題もあるため、全ての短大生が望む履修登録をするのは難しいだろう。しかし、短大生の進学動機として、学習内容だけでなく資格に対しても関心が高い上に、四年制大学よりも再履修のチャンスが限定されていることを考えると、出来る限り短大生の意向を反映する必要があるのではないだろうか。

[16] あなたが本学で専攻する専門分野はどれですか。



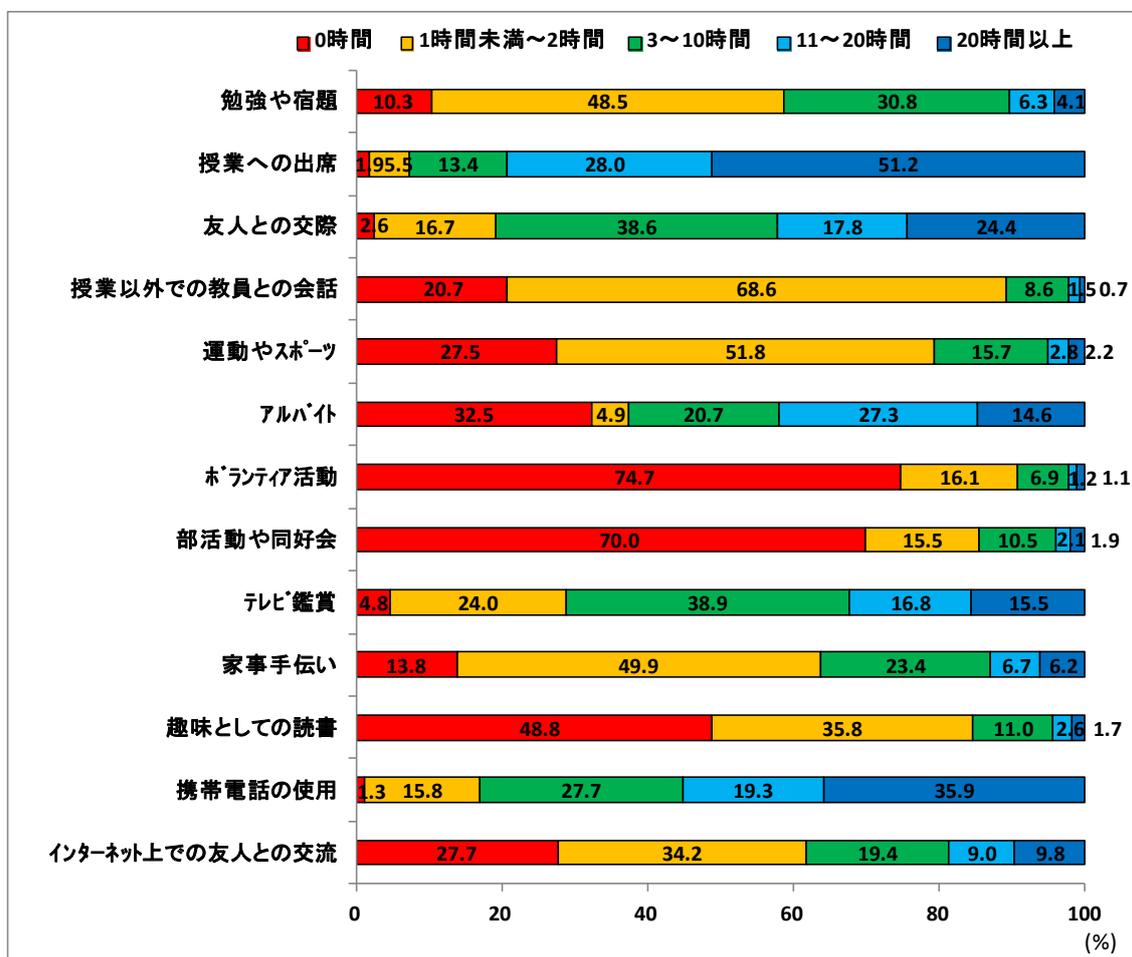
短大生の専攻分野は、「教育」が最も多く 45.0%、続いて、「栄養」が 14.7%、「人文」が 10.6%である。以降は、「福祉」、「保健衛生」、「その他」、「経営」、「看護」、「家政」、「芸術」、「農工」の順番になっている。

[17] あなたは将来的に、どの程度まで進学を考えていますか。



短大生の 80.6%が短大の卒業を目標としており、多くの短大生が短大卒を最終目標として学んでいる。

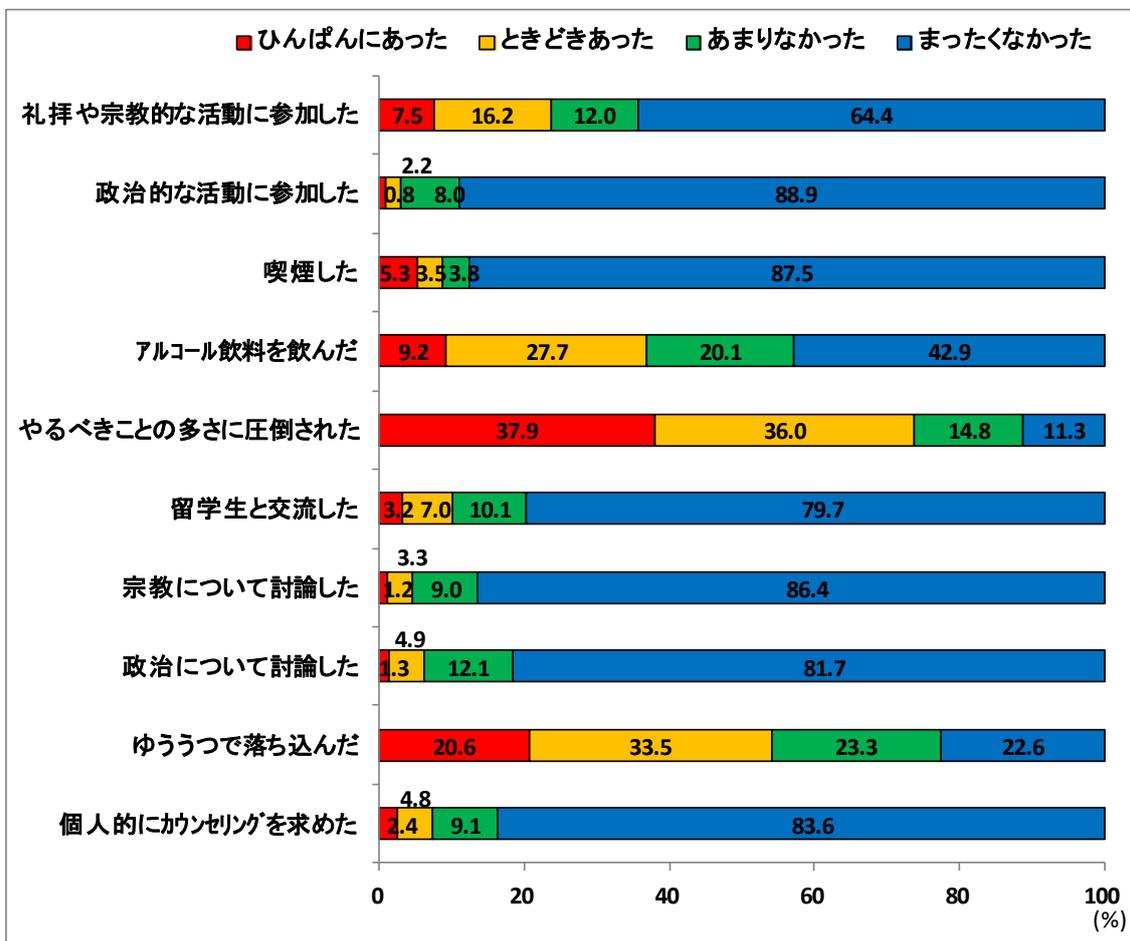
[18] あなたは今年度、次の活動に1週間あたりどれくらいの時間を費やしましたか。



問 18 は、一週間のうち各項目に費やした時間を尋ねた項目である。「授業への出席」は、51.2%が 20 時間以上費やしているが、「勉強や宿題」に一週間あたり 20 時間以上費やした短大生は 4.1%、11~20 時間費やした短大生でも 6.3%にとどまっている。

「授業への出席」を除いた主たる活動(20 時間以上)を見ると、「携帯電話の使用」(35.9%)、「友人との交際」(24.4%)、「アルバイト」(14.6%)、「テレビ鑑賞」15.5%、「インターネット上での友人との交流」(9.8%)となっている。それに対して、活動が 0 時間の割合が多い項目は、「ボランティア活動」(74.7%)、「部活動や同好会」(70.0%)、「趣味としての読書」(48.8%)であった。

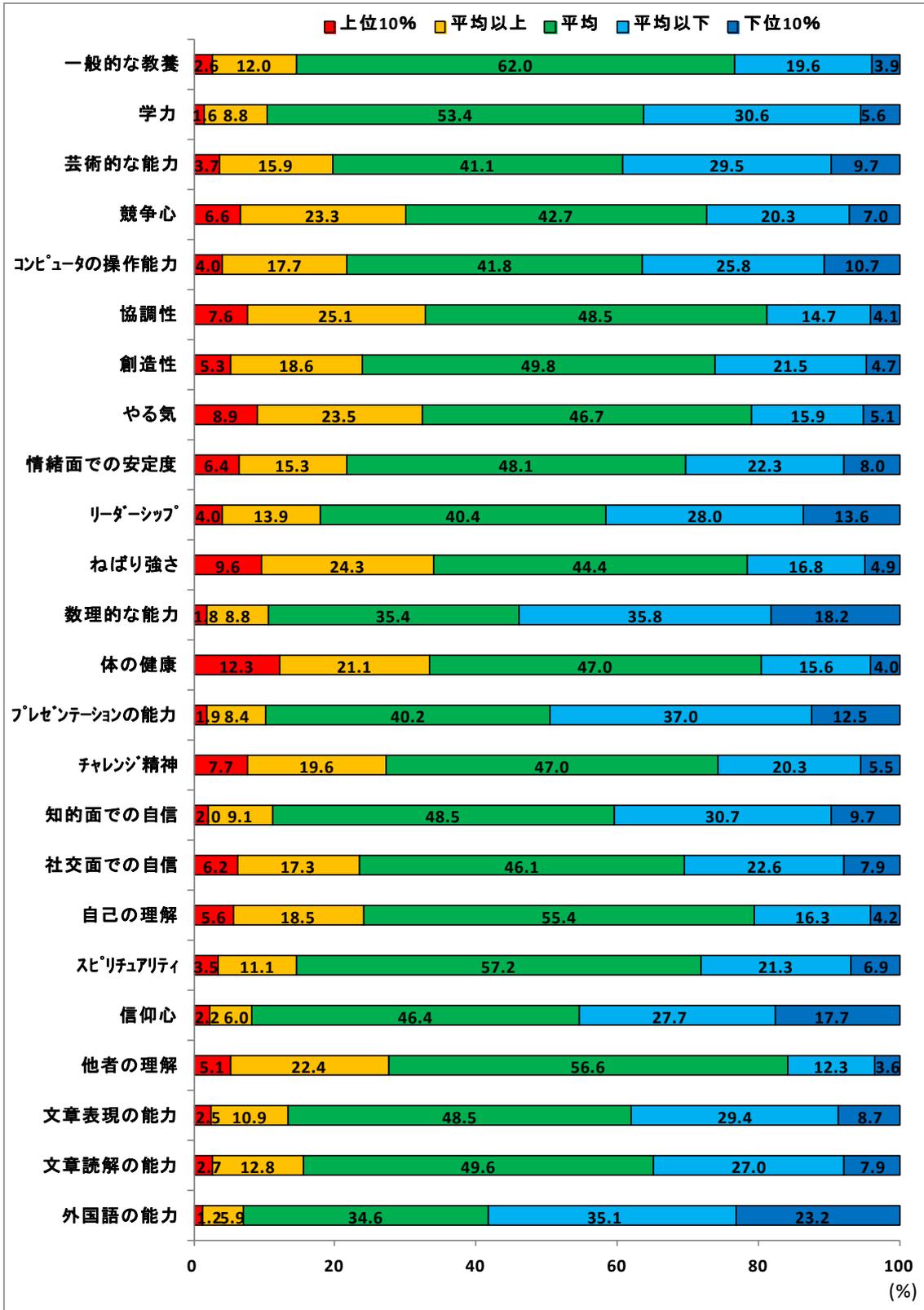
[19] あなたは今年度、次のことがらをどの程度経験しましたか。



問 19 は、各項目の経験の頻度を尋ねた質問である。「まったくなかった」あるいは「あまりなかった」と回答した短大生が 80%を超えている項目は、「政治的な活動に参加した」、「宗教について討論した」、「個人的にカウンセリングを求めた」、「政治について討論した」、「喫煙した」、「留学生と交流した」の 6 項目である。

「ときどきあった」と「ひんぱんにあった」と回答した短大生が多い項目を見ると、「やるべきことの多さに圧倒された」(73.9%)、「ゆううつで、落ち込んだ」(54.1%)が挙げられる。特に、「やるべきことの多さに圧倒された」について、「ひんぱんにあった」のみのパーセンテージを見ると 37.9%に及んでおり、強いストレスを感じている短大生が少なくないことが推察される。

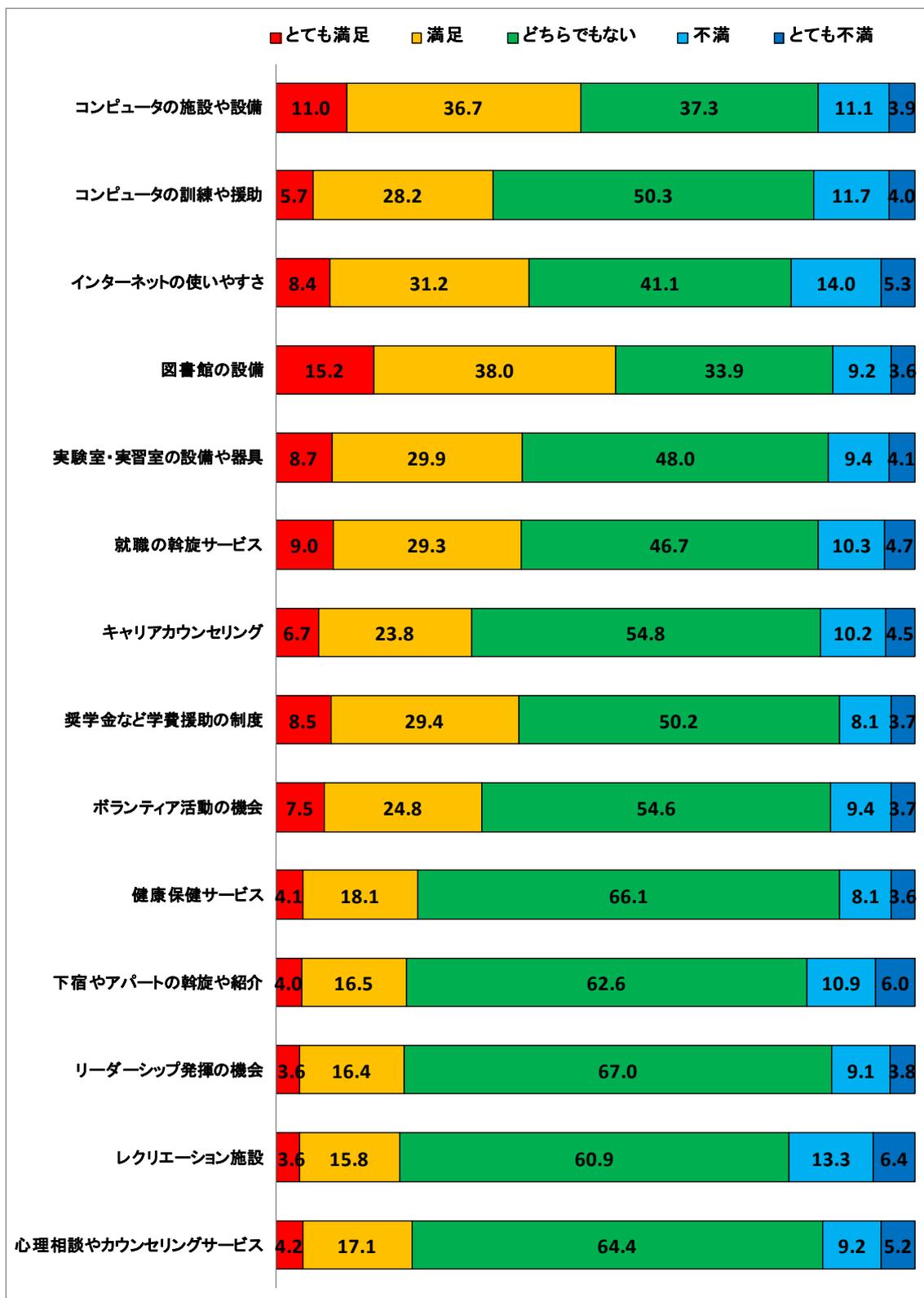
[20] あなたは、同年齢の人たちと比べて、次のことがらについてどのように自己評価しますか。



問 20 は、同年齢の短大生と比較して、各項目の自己評価の高低を尋ねた問いである。「平均以上」と「上位 10%」を合わせたパーセンテージが、「平均以下」、「下位 10%」を合わせたパーセンテージより高かった（自己評価が高い）項目を見ると、「協調性」、「体の健康」、「ねばり強さ」、「他者の理解」、「やる気」、「自己の理解」、「競争心」、「チャレンジ精神」が挙げられる。先の間 19 では、精神的なストレスを感じている傾向が見られたが、問 20 から自己評価が低いわけではないことが明らかになった。短大生の持つモチベーションや意欲は決して低いものではないと言えるだろう。

一方、自己評価が低い項目を見ると、「外国語の能力」、「数理的な能力」、「プレゼンテーション能力」、「リーダーシップ」である。特に「外国語の能力」は、下位 10%が 23.2%、平均以下が 35.1%と、半数以上の短大生が平均以下と評価をしている。「知的面での自信」や「学力」については、およそ 60%の短大生が平均以上であると答えていることから、「外国語の能力」が短大生にとって課題になっていると指摘が出来る。

[21] あなたは、本学の次のことがらに、どの程度満足していますか。

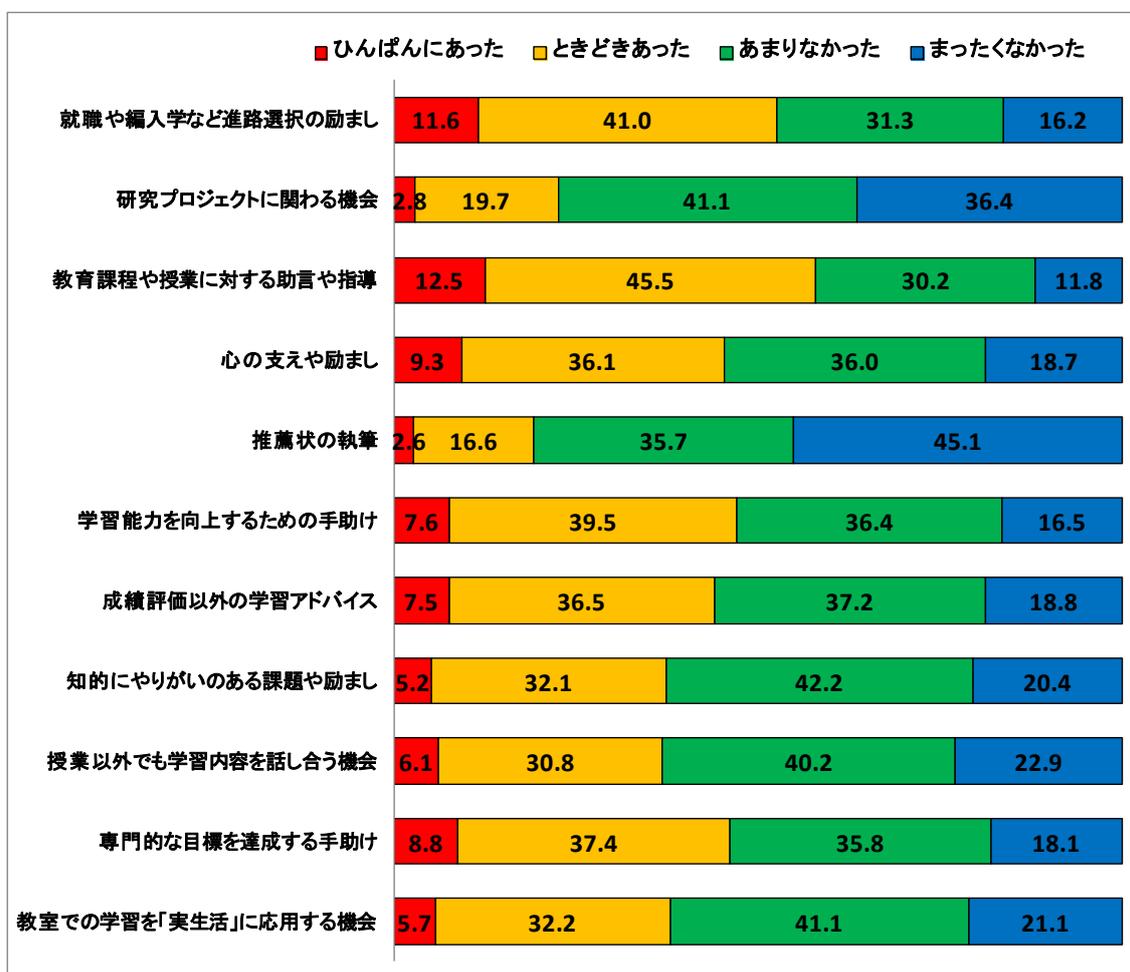


教育や学生のキャンパス・ライフを支える設備や支援制度について、短大生の満足度はどのようになっているのか。以下、短大の設備や学生支援制度に関する満足度を尋ねた問21に対する回答分布について言及する。なお、この設問における評価は「とても満足－満足－どちらでもない－不満－とても不満－わからない」の6段階評価であるが、ここでは「わからない」を欠損値として扱って省略している。なお、表記する項目の隣の数値は、「とても満足」と「満足」との回答割合である。

短大の設備や学生支援制度について、半数前後の短大生が満足していると回答した項目は、満足度が高い順に「図書館の設備」(53.3%)と「コンピュータの設備や整備」(47.7%)である。これに「インターネットの使いやすさ」(39.6%)、「実験室・実習室の設備や器具」(38.6%)、「就職の斡旋サービス」(38.3%)、「奨学金など学費援助の制度」(38%)、「コンピュータの訓練や援助」(34.0%)、「ボランティアの機会」(32.3%)、「キャリアカウンセリング」(33.0%)が続いている。これらより、授業等で日常的に使用する設備や施設や情報ネットワーク関連設備に関しての満足度が高い傾向にあり、多くの短大生が満足を示している。また奨学金などの学費援助制度も約4割の短大生が満足と答えており、一定のニーズは満たしていると推測できる。ただし、「インターネットの使いやすさ」については満足している人も多い反面、2割近くの短大生が不満を感じていることも留意すべきである。

上記の項目とは別に、特定の学生しか利用しない設備や支援制度については、満足でも不満でもない中間回答の「どちらでもない」といった回答が多くなっている。6割以上の中間回答割合なのは「健康保健サービス」(22.2%)、「下宿やアパートの斡旋や紹介」(20.5%)、「リーダーシップ発揮の機会」(20.0%)、「レクリエーション施設」(19.4%)「心理相談やカウンセリングのサービス」(21.3%)などである。これらの項目については、単に学生が利用していないか、もしくは短大側が整備していないといった可能性がある。

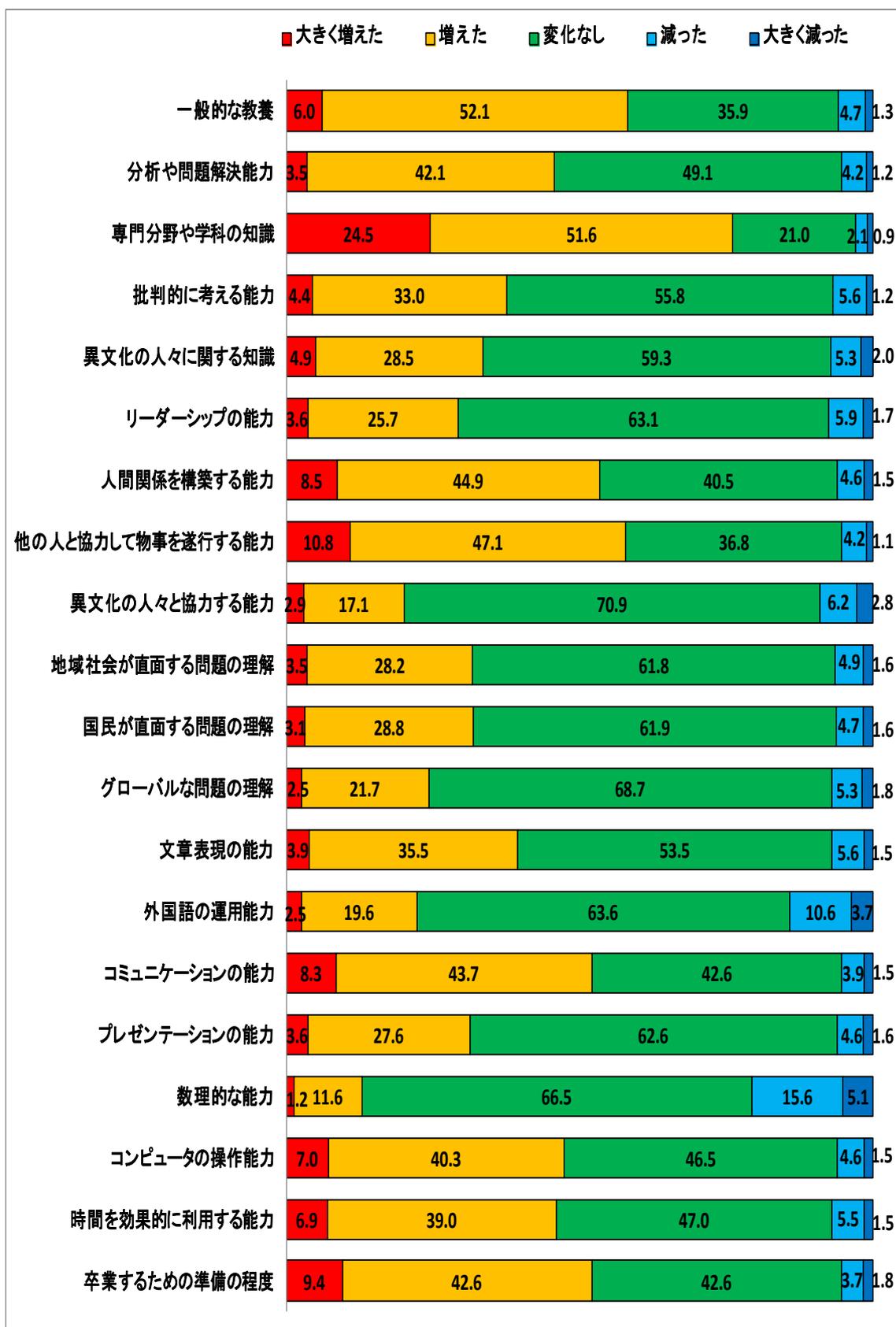
[22] 本学の短大教員は、あなたに次のような活動をどのくらい提供しましたか。



短大教員が短大生に対して以下に提示する活動をどれくらい提供しているかに尋ねた問22の回答分布について記述する。表記する項目の隣の数値は、「ひんぱんにあった」と「ときどきあった」の回答割合の合計である。

教員から半数以上の短大生が「ひんぱんにあった」と「ときどきあった」と答えたものは「教育課程や授業に対する助言や指導」(58.0%)や「就職や編入学など進路選択の励まし」(52.6%)といった活動である。この他に教員からの関わりが多かったものとして、「学習能力を向上するための手助け」(47.1%)や「専門的な目標を達成する手助け」(46.2%)、「心の支えや励まし」(45.3%)、「成績評価以外の学習アドバイス」(44.0%)、といった項目があり、4割以上の短大生がこの種の関与が「あった」と回答している。上記に挙げた項目の特徴として、教員から学習活動を支援する関与を多く受けており、この回答分布を見る限り、短大教員は短大生に対して積極的な関与を行っていることがうかがえる。反対に提供が少ない活動は、「研究プロジェクトに関わる機会」(22.5%)と「推薦状の執筆」(19.2%)であり、そもそもこれらの関与は短大において行う機会そのものが少ないことが考えられる。

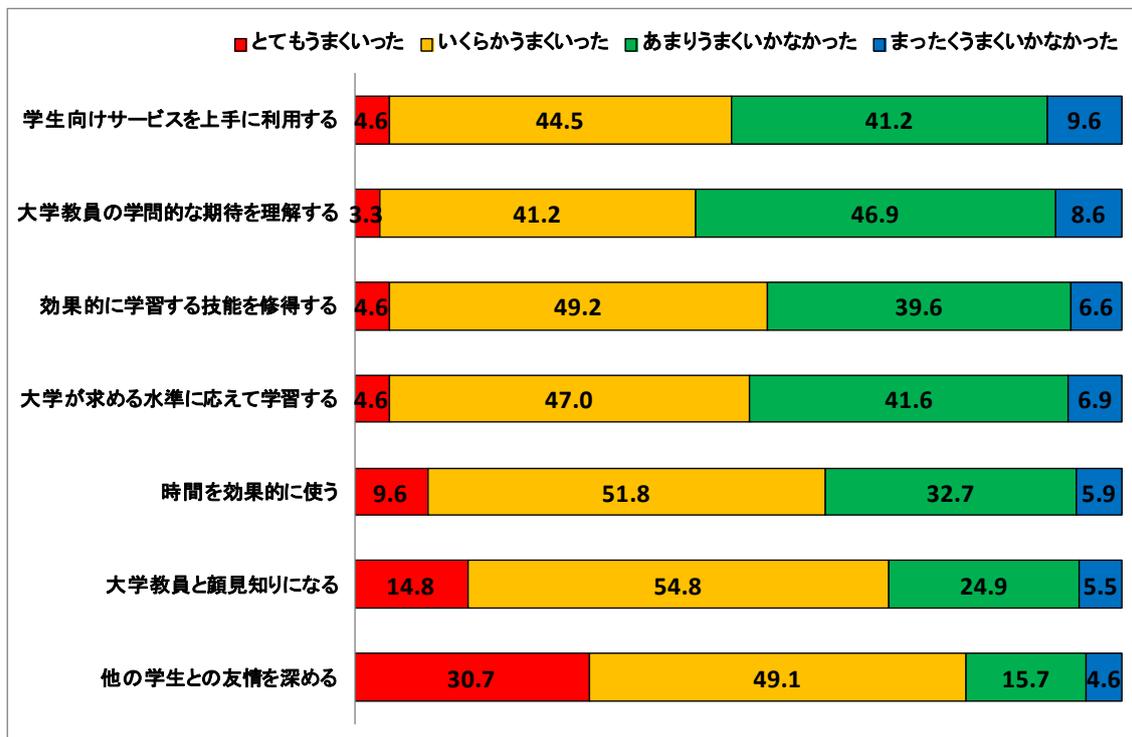
[23] 入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。



問 23 では短大入学後の学生の知識・技能の獲得についてその変化状況を尋ねている。以下提示する項目内容の横の数値は「大きく増えた」と「増えた」といった増加割合の合計である。

能力が伸長したと答えた割合が最も高いのは「専門分野や学科の知識」(76.1%)であることから、多くの短大生が自身の進学した学部・学科の専門教育から知識や技能を取得できていることがうかがえる。ただ、短大教育が専門教育だけしか行っていないかと言えばそうではなく、「一般的な教養」も 58.2%となっていることから、教養教育についても短大が力を注いでいることが推測できる。またこれら以外に半数以上の短大生が増えたと実感している能力は降順に「他の人と協力して物事を遂行する能力」(57.9%)、「人間関係を構築する能力」(53.4%)、「コミュニケーションの能力」(52.1%)、「卒業するための準備の程度」(52.0%)となっている。ここで注目すべきは、対人関係を構築する際に必要となる能力が高い割合で獲得されていることである。これ以外に 4 割以上の短大生が増加したとしている能力は順に、「コンピュータの操作能力」(47.4%)、「時間を効果的に利用する能力」(45.9%)、「分析や問題解決能力」(45.6%)である。3 割以上が増えたと答えたものとしては「文章表現の能力」(39.4%)、「批判的に考える能力」(37.4%)、「異文化の人々に関する知識」(33.4%)、「国民が直面する問題の理解」(31.8%)、「地域社会が直面する問題の理解」(31.7%)、「プレゼンテーションの能力」(31.2%)となっている。また増加と答えた割合が 3 割を切る項目は「リーダーシップの能力」(29.3%)、「グローバルな問題の理解」(24.2%)、「外国語の運用能力」(22.2%)、「異文化の人々と協力する能力」(20.0%)、「数理的な能力」(12.8%) の 5 項目である。特に「外国語の運用能力」と「数理的な能力」は他とは異なり「減った」または「大きく減った」と回答した学生が 10%以上存在している。

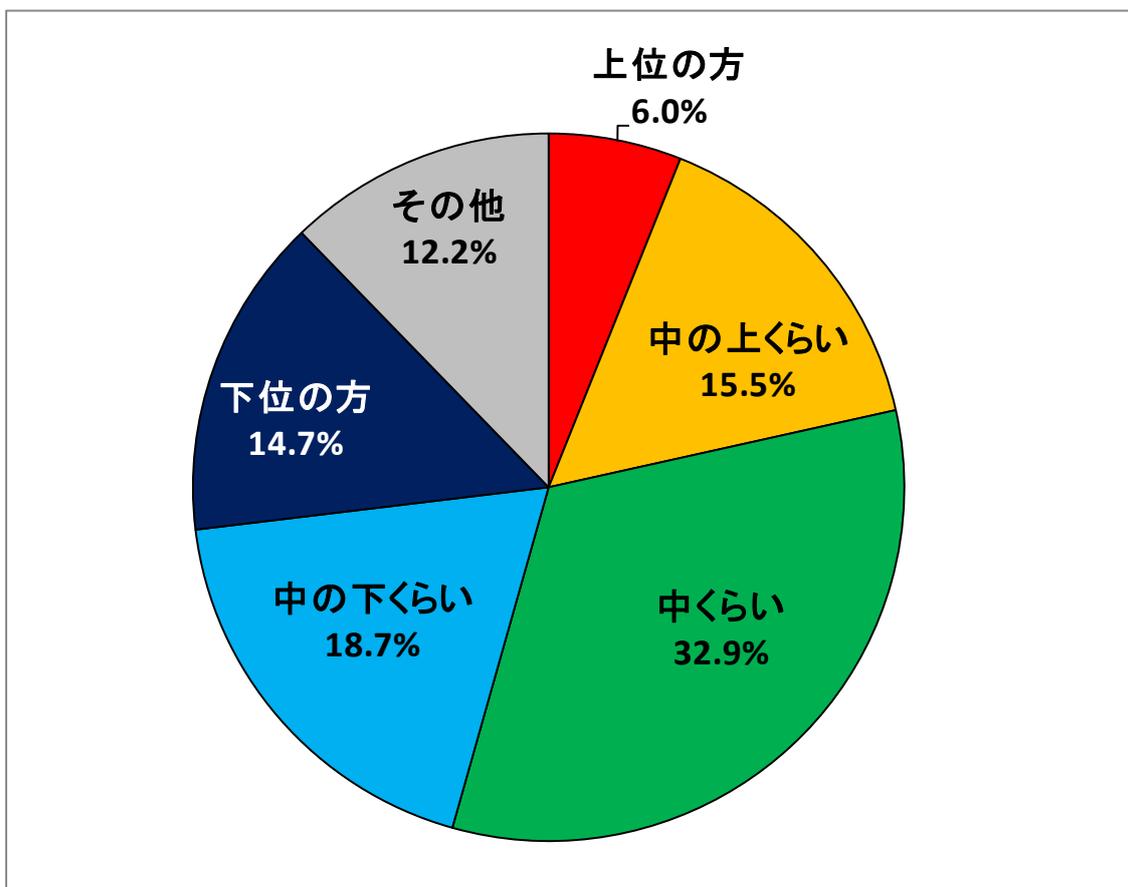
[24] 本学に入学してから、あなたは次の項目にどのくらいうまくいきましたか。



問 24 では短大生は入学してからどのくらい短大に適応しているかを聞いている。それについて尋ねた 7 つの項目の回答分布について以下に記述する。ここでも「とてもうまくいった」と「うまくいった」の割合を足したものを項目の隣に提示している。

全体の回答傾向として「うまくいった」といった肯定的な回答をした短大生が多い。このうち特に割合が高いのが「他の学生との友情を深める」(79.7%)と「大学教員と顔見知りになる」(69.7%)の 2 つの項目であり、学生生活において多くの短大生が良好な人間関係を築いていることがうかがえる。これらに続き「時間を効果的に使う」(61.4%)や「効果的に学習する技能を修得する」(53.9%)、「大学が求める水準に応じて学習する」(51.6%)、「学生向けサービスを上手に利用する」(49.2%)といった項目においても、ほぼ半数を超える短大生が学生生活にうまく適応できていると回答している。「大学教員の学問的な期待を理解する」(44.5%)は他の項目より若干肯定回答の割合が低い、4 割以上の短大生は授業等で教員が期待する学習について概ね理解していることがわかる。

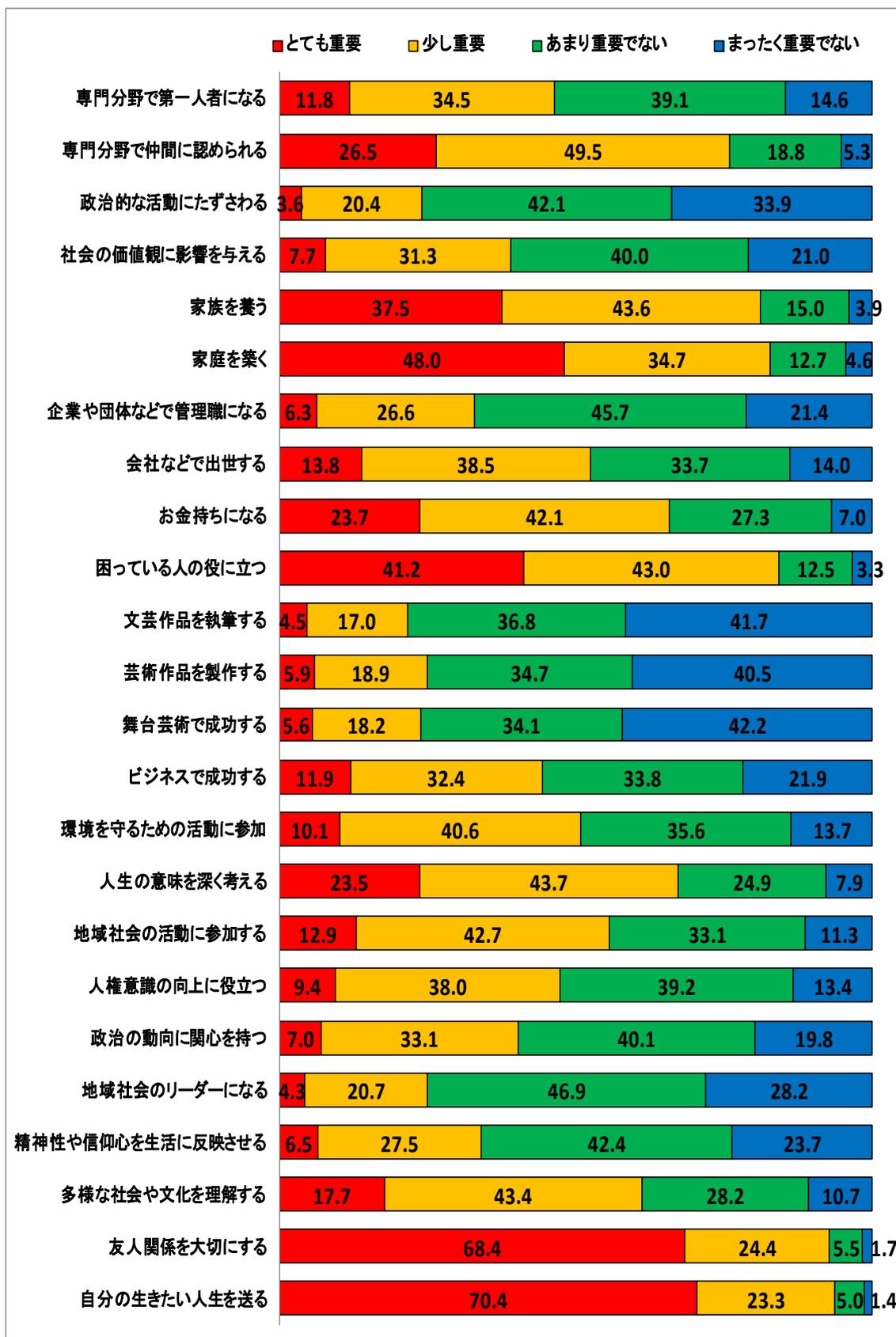
[25] あなたの本学での成績はどれくらいですか。



調査に回答した短大生の成績分布はどのようになっているだろうか。成績の自己評価について問 25 で聞いている。

これを見ると、最も回答が多いのは「中くらい」の 32.9%であり、成績中位者が全体の 3 分の 1 を占めていることがわかる。また「上位の方 (6.0%)」や「中の上くらい (15.5%)」といった成績上位層は 5 人に 1 人程度いる。「中の下くらい (19.7%)」と「下位の方 (12.2%)」の成績下位者は全体の約 3 割である。

[26] あなたの人生にとって、次のことがらはどの程度重要ですか。

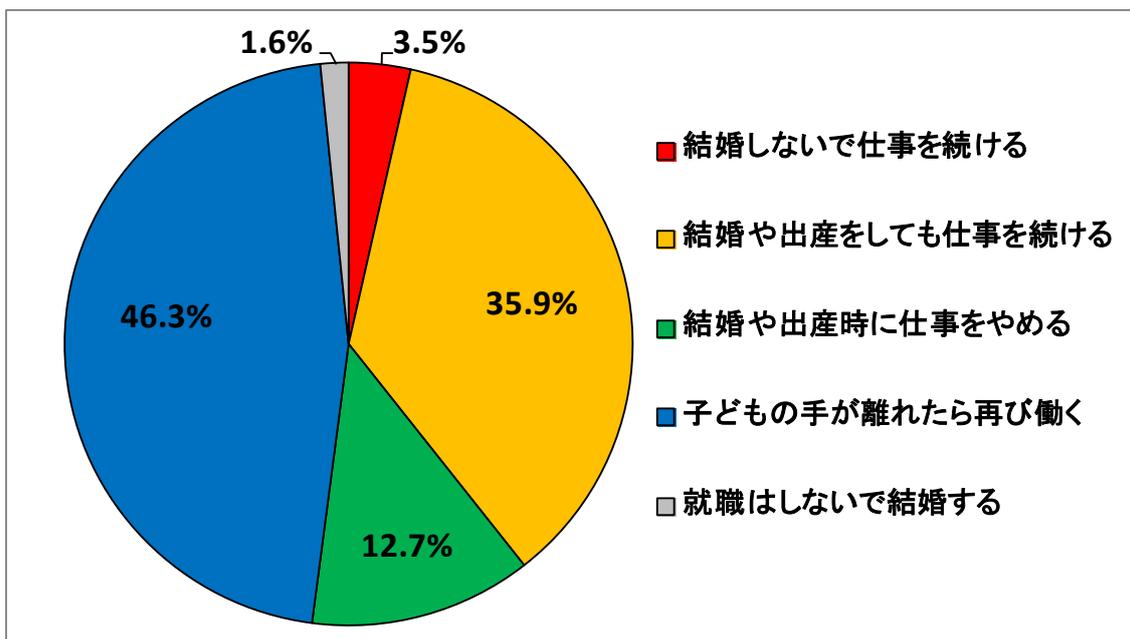


問 26 では、短大生が人生を送るうえで重要だと思うものは何かについて、言い換えれば短大生の持つ価値観について尋ねている。なお、項目の隣の数字は「とても重要である」と「重要である」を足した割合である。

短大生が特に重要だと考えている項目についてみると、重要度が高い順に「自分の生きたい人生を送る」(93.7%)、「友人関係を大切にする」(92.8%)であり、ほぼ全ての学生がこの 2 つの項目に関して重要だと思っている。この他に「困っている人の役に立つ」(84.1%)、「家族を築く」(82.7%)、「家族を養う」(81.1%)についても約 8 割の短大生が重要だとみなしている。上記以外に半数以上の人的重要だと思っている項目は降順に、「専門分野で仲間認められる」(75.9%)、「人生の意味を深く考える」(67.2%)、「お金持ちになる」(65.8%)、「多様な社会や文化を理解する」(61.0%)、「地域社会の活動に参加する」(55.6%)、「会社などで出世する」(52.4%)、「環境を守るための活動に参加」(50.8%)となっている。これら重要度が高い項目の特徴としては、自分の人生の意義を考え、自己決定を下すことを重視し、また家族や友人、仲間を中心に良好な関係を築きたいという願望が垣間見える。それと同時に自分以外の他者に対してや地域社会、また環境に対して何らかの貢献をしたいという意識を持っていることがうかがえる。ただそれ以外にも「お金持ちになる」や「会社などで出世する」などから、経済的・社会的地位の上昇も達成したいとも考えている。

上記とは反対に短大生から重要度が低いとみなされている項目は、「文芸作品で執筆する」(21.5%)や「舞台芸術で成功する」(23.7%)、「政治的な活動にたずさわる」(24.0%)、「芸術作品を製作する」(24.8%)、「地域社会のリーダーになる」(25.0%)である。これらの項目から、文化・芸術に関するものや政治活動に関するもの、またリーダーになるといったことをあまり重要だと思わない傾向にある。

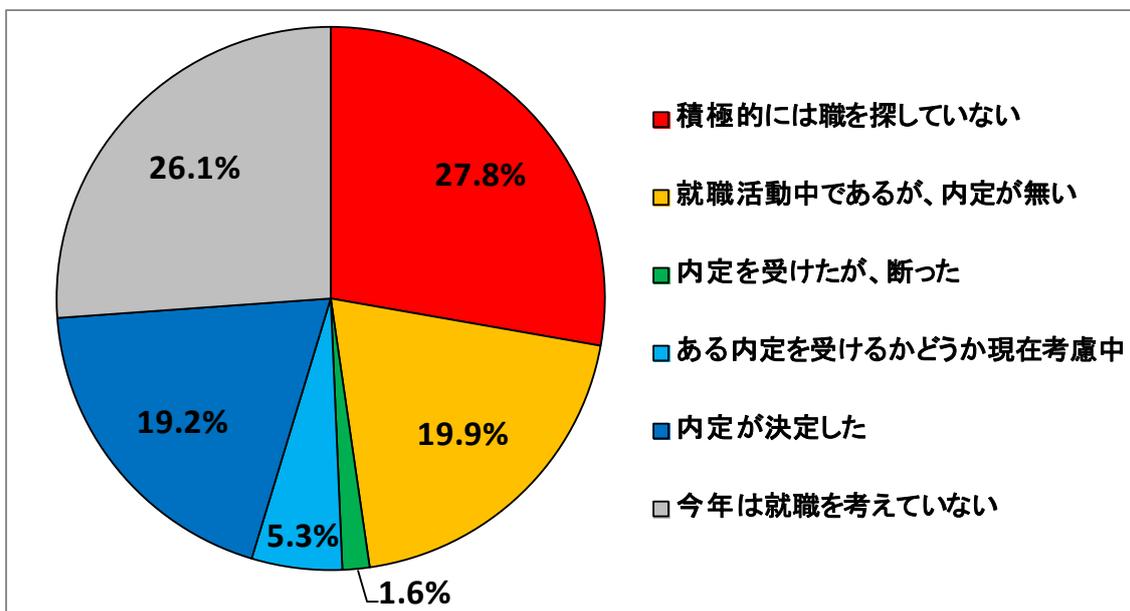
[27] 次のうち、女性の生き方としてあなたの考えに最も近いものはどれですか。



今後社会へと進む短大生は一体どのようなキャリア・イメージを持っているのか。それについて尋ねた問 27 の回答分布は次のようになっている。なお、この項目は 9271 名の有効回答のうち、設問内容から男子学生 879 名を除いた女子学生 8392 名のみを分析対象としている。

回答の分布は、「結婚しないで仕事を続ける」(3.5%)、「結婚や出産をしても仕事を続ける」(35.9%)、「結婚や出産時に仕事をやめる」(12.7%)、「子どもの手が離れたら再び働く」(46.3%)、「就職はしないで結婚する」(1.6%) となっている。これらの回答から、結婚や出産の有無、一時離職したとしても何らかの形で働きたいと思っている女子学生がほとんどである。ただこの回答から察するに、短大生にとって、結婚より出産とその後の子育てが仕事の継続を左右する大きな要因である可能性が高い。

[28] 卒業後に就職を予定している場合、あなたの現在の状況を教えてください。

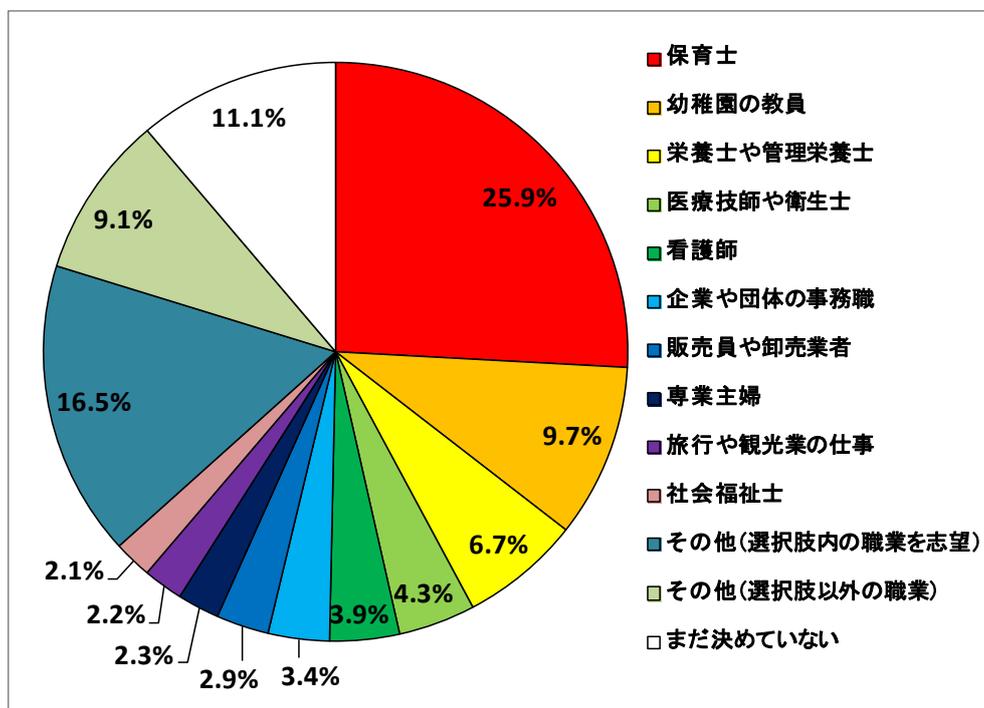


問 28 では現在就職活動をしている(した)学生を対象に、現在の活動状況を尋ねている。

これをみると、回答割合は「積極的に職を探していない」(27.8%)、「就職活動中であるが、内定が無い」(19.9%)、「内定を受けたが、断った」(1.6%)、「ある内定を受けるかどうか現在考慮中」(5.3%)、「内定が決定した」(19.2%)、「今年は就職を考えていない」(26.1%)となっている。これらより、何らかの内定を受けた経験がある短大生は回答全体の約3割いることがうかがえる。

その一方で「積極的に職を探していない」と「今年は就職を考えていない」を足すと53.9%より、回答時点で就職活動を行っていない、または一切行っていない短大生が5割以上いることが読み取れる。ただこの背景には、専門分野によって就職活動の時期が異なること、また就職活動は主に「2年生以上」であり1年生が活動自体行っていないと考えられる。念のため、学年別の傾向を見てみると、「積極的に職を探していない」に回答した2502名のうち、1年生が74.5%、2年生以上が25.5%である。また「活動中であるが、内定がない」に回答した1794人中1年生41.5%、2年生以上58.5%となっている。「今年は就職を考えていない」では、2354人のうち1年生が81.1%、2年生以上が18.9%であった。内定が決定した学生についても、学年別の内訳は1年生が9.4%であるのに対して2年生以上は90.6%である。以上より現在就職活動をしていない学生の多くが1年生であることがわかる。

[29] あなたは将来、どのような職業やキャリアに進みたいですか。

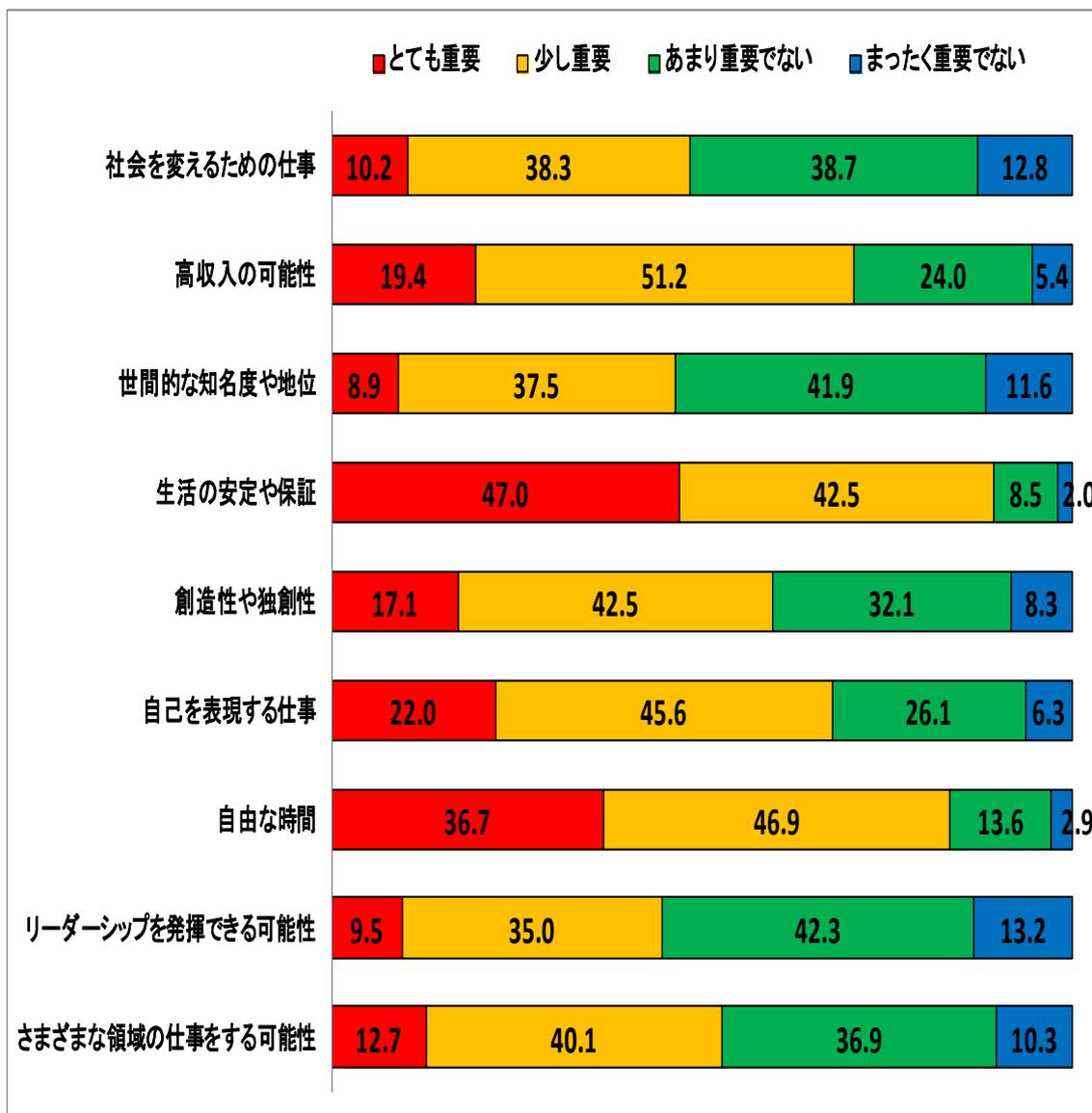


問 29 は将来どのような職業やキャリアに就きたいかを尋ねた設問である。この設問では 55 の職業のうち 1 つを選択するよう求めているが、そのままでは全体の回答傾向が把握しにくいので、特に回答割合が高い職業のうち上位 10 位までを整理し説明する。なお、無回答者 605 人を除いた 9032 名が有効回答である。この設問の全体の回答状況は集計表一覧を参照いただきたい。

回答時点で何らかの職業・キャリアを志望している短大生は全体の 89.8%であり、キャリア未決定の短大生は 11.1%のみである。志望度が高い上位 10 の職業は、順に「保育士」(25.9%)、「幼稚園の教員」(9.7%)、「栄養士や管理栄養士」(6.7%)、「医療技師や衛生士」(4.3%)、「看護師」(3.9%)、「企業や団体の事務職」(3.4%)、「販売員や卸売業者」(2.9%)、「専業主婦」(2.3%)、「旅行や観光業の仕事」(2.2%)、「社会福祉士」(2.1%)となっている。これらから「保育士」や「幼稚園の教員」といった就学前の幼児関連施設で働く職業に全体の 3 割の短大生が志望している。

このような職業志望は、現在所属している学科や専攻と高い相関にあると予想される。特にこの傾向が高い専門分野として「教育」と「看護」、「保健衛生」、「栄養」である。まず専門分野「教育」とした短大生 4276 人のうち、「保育士」を選択したのが 2244 人(55.2%)、また「幼稚園の教員」を選んだのは 859 人(21.1%)となっている。これより、専門分野「教育」の短大生の約 8 割が幼児関連施設での職を志望していることが確認できる。同様に専門分野「看護」とした短大生 373 人の中で「看護師」を選んだ短大生は 312 人(87.2%)であり、専門分野「保健衛生」の 464 人のうち 360 人(81.3%)が「医療技師や衛生士」を、この他に専門分野「栄養」1395 人中 584 人(43.8%)が「栄養士や管理栄養士」を志望している。

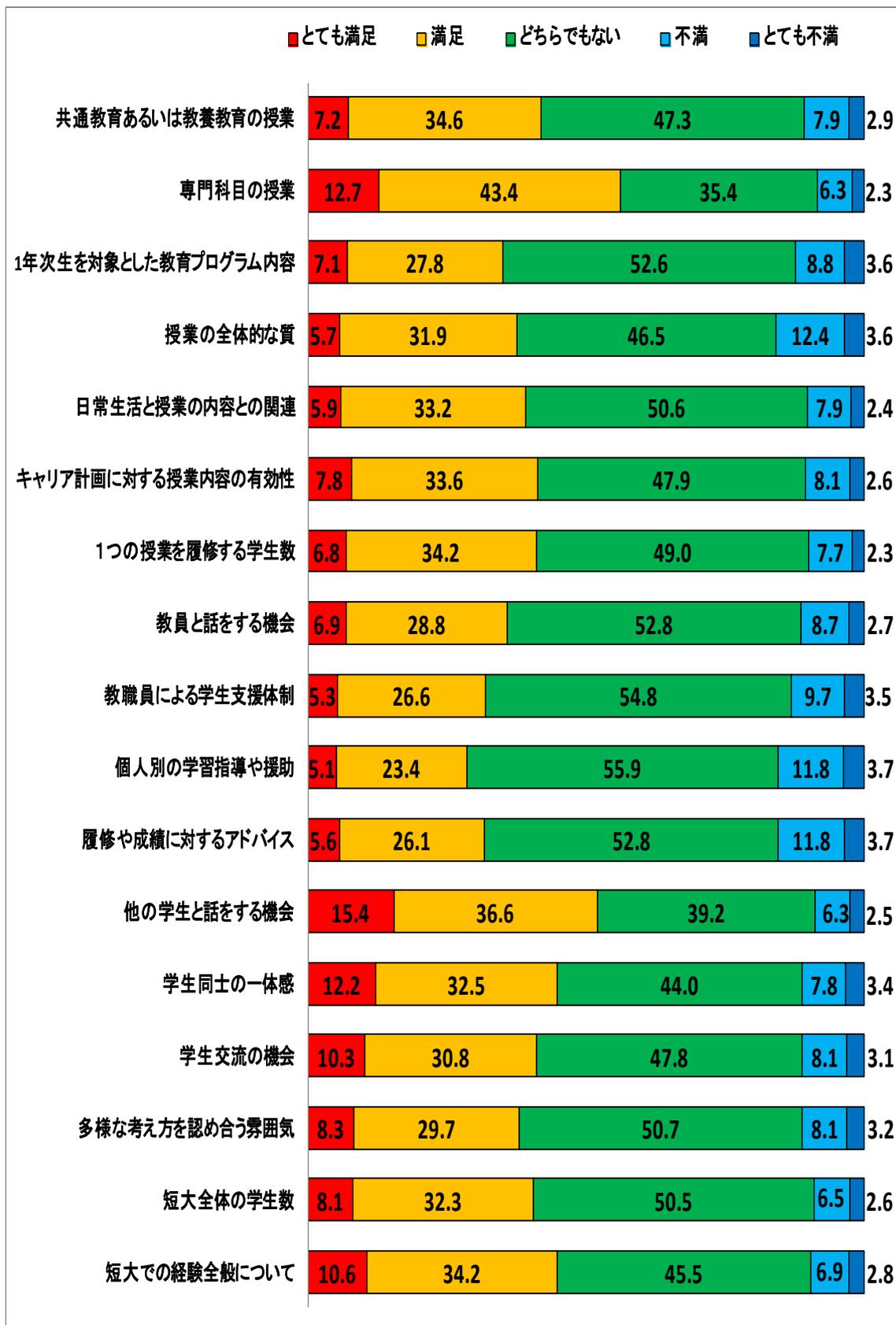
[30] 短大卒業後のキャリアを考えると、次のことがらはどの程度重要ですか。



問 30 ではキャリアを選択する際に、どのようなことを重視するのかを 9 項目で尋ねている。なお、項目の隣の数字は「とても重要である」と「重要である」の合計割合である。

これを見ると、キャリアを考えるにあたって半数以上の短大生が重要だとみなしている項目は、「生活の安定や保証」(89.5%)、「自由な時間」(83.6%)、「高収入の可能性」(70.6%)、である。この他に「自己を表現する仕事」(67.6%)、「創造性や独創性」(62.2%)と「さまざまな領域の仕事をする可能性」(55.5%)が続いている。上記の回答傾向から、生活の基盤となる収入が十分に保障され、自己実現可能な仕事ができ、余暇などの時間が確保できるのを重視し、また仕事に自分独自の感性や発想を求める一方で、様々な仕事をこなすことを求める短大生が多いことがわかる。これ以外の「社会を変えるための仕事」(48.5%)と「世間的な知名度や地位」(46.4%)、「リーダーシップを発揮できる可能性」(44.5%)の 3 項目は重要でないとした回答割合が高くなっている。

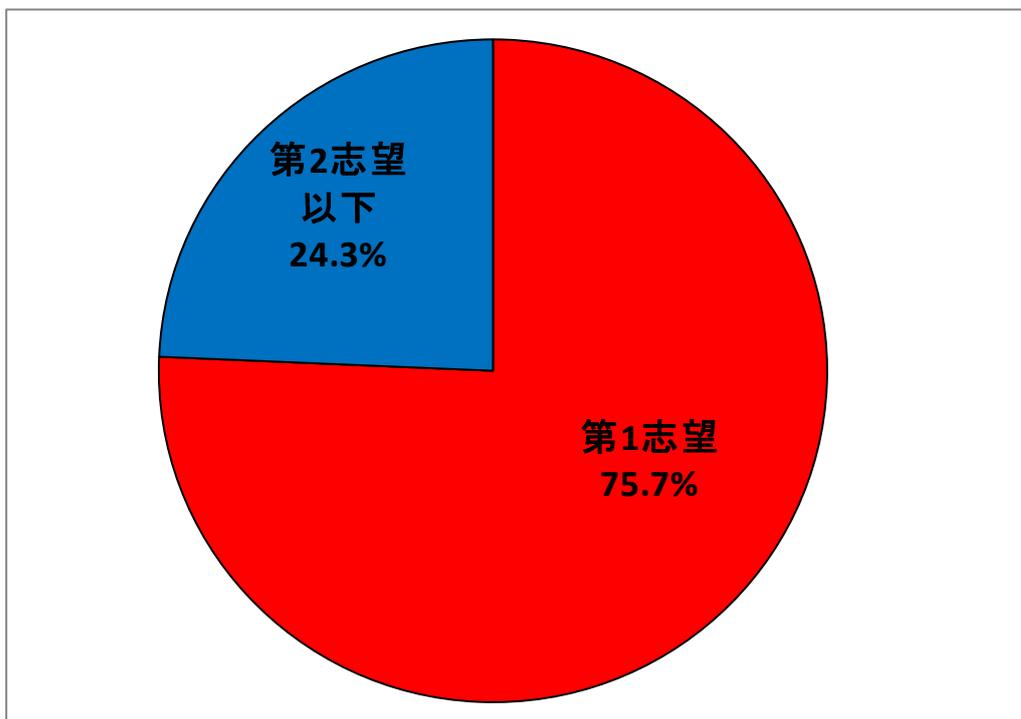
[31] あなたは、本学にどれくらい満足していますか。



短大の教育全般に対して短大生はどの程度満足しているのか。問 31 では 17 項目で短大教育の満足度について聞いている。なお問 31 については問 21 同様、各設問項目は「とても満足—満足—どちらでもない—不満—とても不満—わからない」の 6 段階評価で構成されているが、ここでは「わからない」は欠損値として扱って省略している。また各項目名の隣にある数字は「とても満足」と「満足」と回答した割合の合計値である。

これを見ると、半数以上の学生が満足感を得ている項目は「専門科目の授業」(56.1%)と「他の学生と話をする機会」(51.9%)の 2 項目である。またこれらに続き満足度の高い項目は順に、「短大での経験全般について」(44.8%)、「学生同士の一体感」(44.7%)、「共通教育あるいは教養教育の授業」(41.9%)、「キャリア計画に対する授業内容の有効性」(41.3%)、「学生交流の機会」(41.0%)、「1 つの授業を履修する学生数」(41.0%)、「短大全体の学生数」(40.4%)であり、これら 6 項目に 40%以上の短大生が満足を示している。これ以外にも 3 割以上の短大生が満足を示しているのは順に「日常生活と授業内容との関連」(39.1%)、「多様な考え方を認め合う雰囲気」(38.0%)、「授業の全体的な質」(37.6%)、「教員と話をする機会」(35.7%)、「1 年次生を対象とした教育プログラム内容」(35.0%)、「教職員による学生支援体制」(32.0%)、「履修や成績に対するアドバイス」(31.7%)となっている。「個人別の学習指導や援助」(28.5%)もほぼ 3 割であることから、ほとんどすべての項目について 3 割以上の短大生が短大の教育や教育支援制度に満足を示していることになる。これは「とても不満」と「不満」の回答割合が 2 割を超える項目がないことからもうかがえる。ただし、これら満足度に関する項目においては「どちらでもない」という中間回答を選ぶ短大生が多くなる傾向にあり、この設問においても中間回答が 4 割以上を占める項目は全 17 項目中 15 項目である。

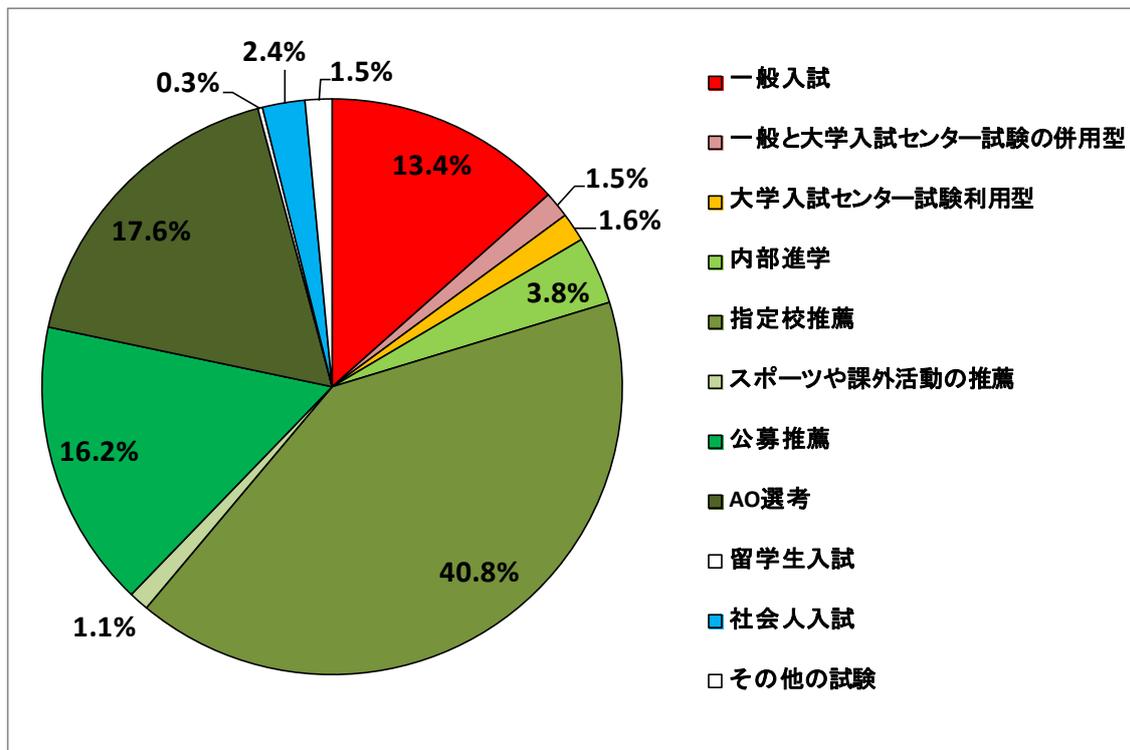
[32] あなたが志望した大学や短大の中で、本学は何番目でしたか。



現在進学している短大の志望順位はどのくらいだったのか、それについて問 32 では尋ねている。

「第1志望」と答えた短大生は全体の 75.7%、「第2志望以下」は 24.3%となっている。このことから、4人のうち3人の短大生が現在所属している短大を志望して進学している。

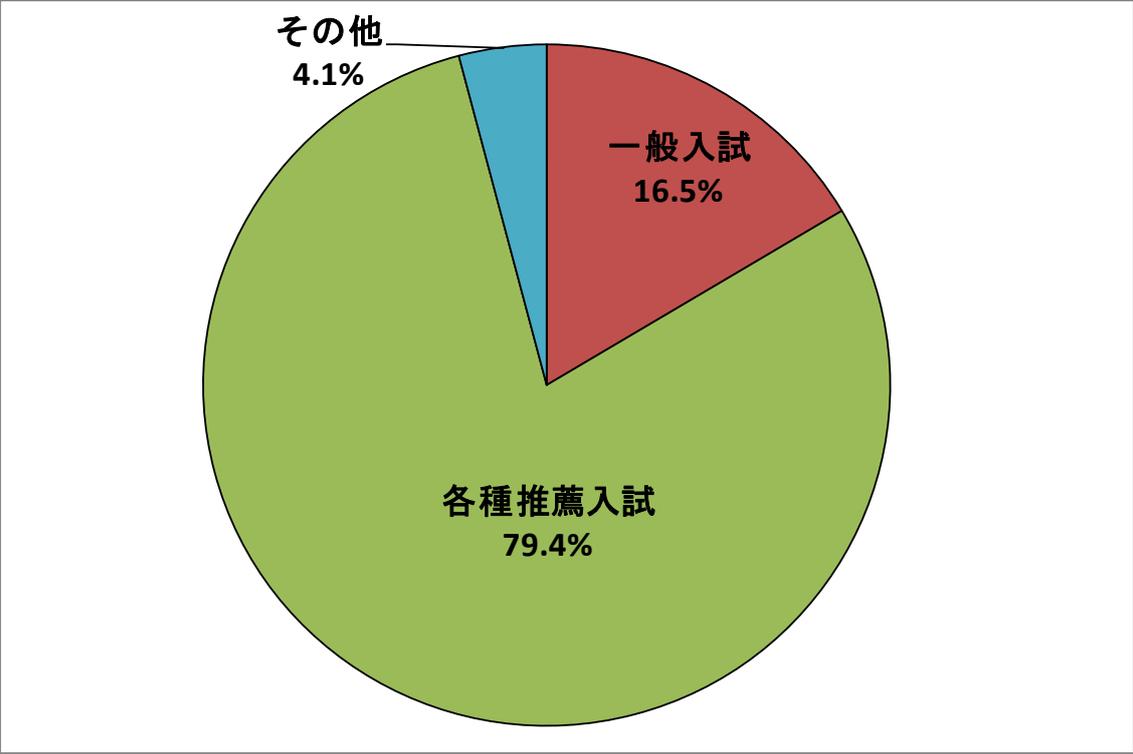
[33] あなたはどのような入学試験を受けて、本学に入学しましたか。



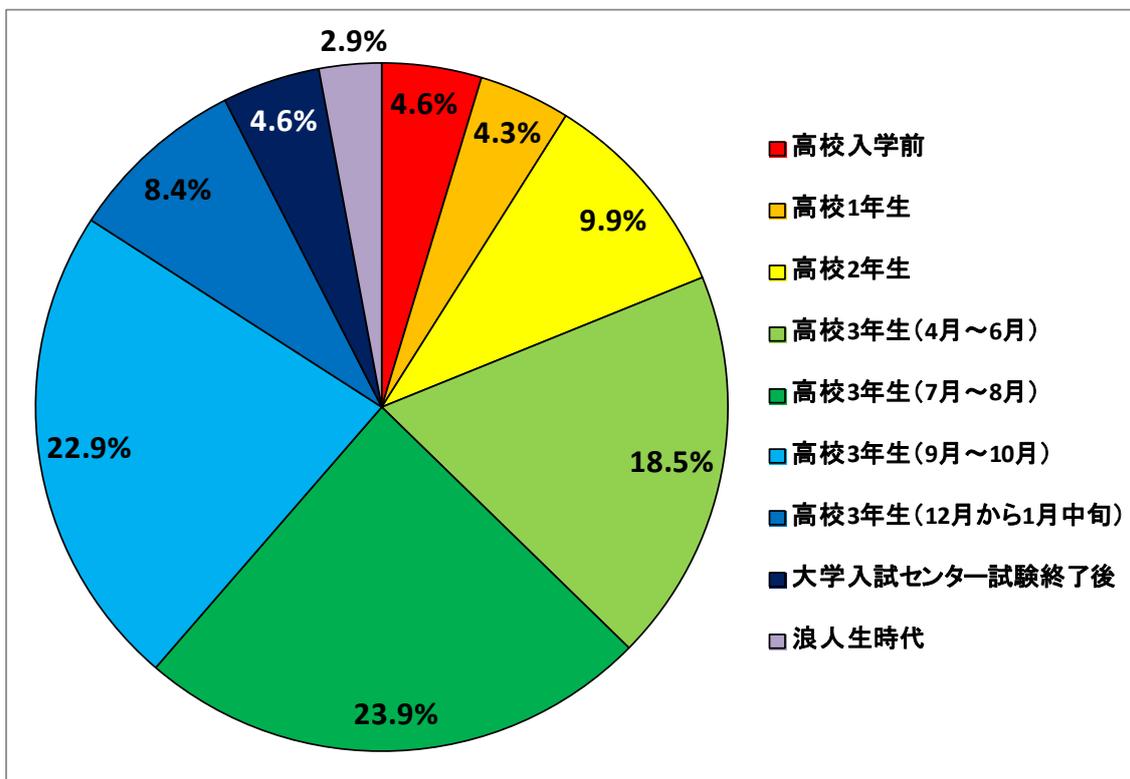
先の設問において多くの短大生が第1志望の短大に進学しているが、それではどのような入試方式を通して進学してきたのだろうか。問32では入試方式について聞いている。

これを見ると、最も多いのは「指定校推薦」(40.8%)であり、4割以上の短大生がこの方式によって進学していることがわかる。これに「AO選考」(17.6%)や「公募推薦」(16.2%)、「一般入試」(13.4%)が続いている。これら4つの入試方式によって短大生の約9割の短大生が入学している。

次に11の入試方式を3つに分類し直してその割合を見ていく。この分類は、1つ目は「一般入試」、「一般入試と大学入試センター試験の併用」、「大学入試センター試験利用」をひとくくりとする学力入試を伴った「一般入試」区分である。2つ目は「各種推薦入試」であり、これは「内部進学」、「指定校推薦」、「スポーツ等の推薦」、「公募推薦」、「AO選考」の5つの入試方式をまとめている。そして3つ目は「その他」の入試であり、「留学生入試」と「社会人入試」、「その他の試験」を合わせている。この3区分によると学力選抜試験を伴った「一般入試」による進学者は全体の16.5%にすぎないが、「各種推薦入試」の進学者は79.4%を占めている。このことより、5人中4人が一般学力選抜によらない入試方式によって短大に進学していることがうかがえる。



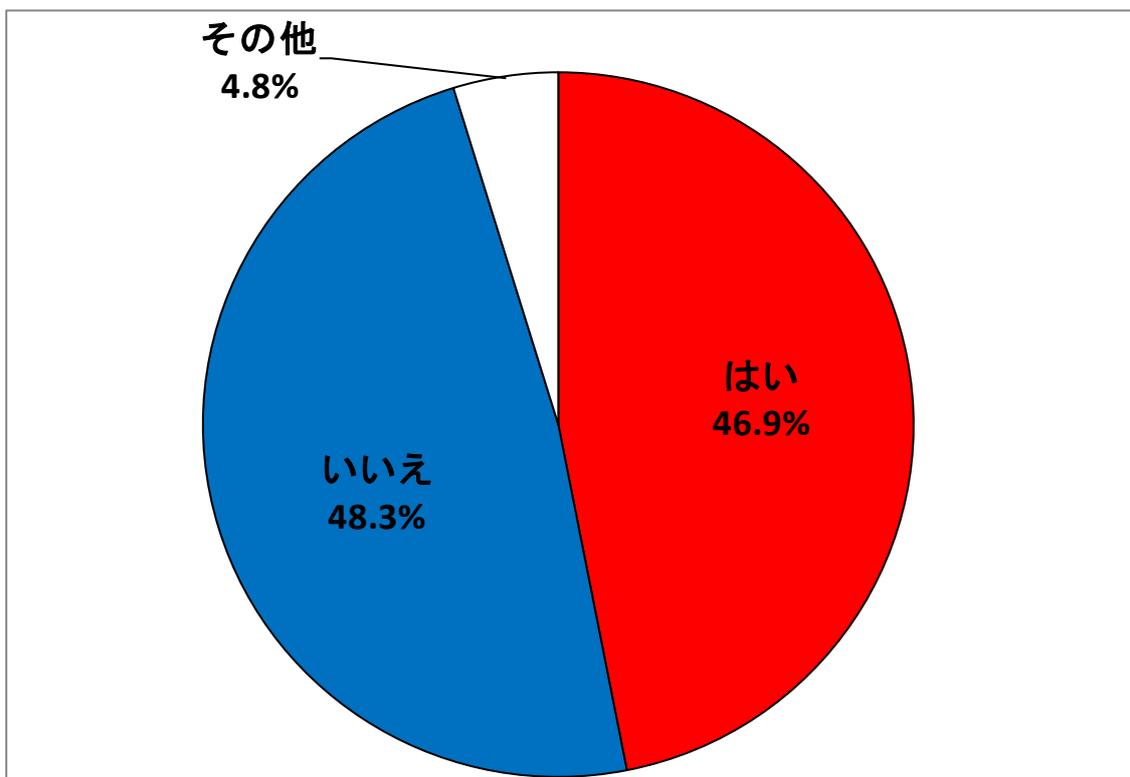
[34] あなたが本学の受験を決めたのはいつですか。



短大生はいつ頃現在の短大への進学を決めたのか。それについて問 34 で尋ねたところ、次のような回答になった。

まず進学決定時期の回答割合が最も高いのは「高校3年生の7～8月」の23.9%であり、これに「高校3年生の9～10月」の22.9%が続いている。また「高校3年生の4～6月」も18.5%となっている。これらから、高校3年生の始業の4月から夏休みの終わる8月までに受験を決定した回答者全体の42.5%である。これに高校以前(4.6%)、高校1年生(4.3%)、高校2年生(9.9%)を加えると6割を超え、多くの学生が高校3年生の早い段階かそれ以前に進学先を決めていることになる。この背景の一つには、先の設問から各種推薦入試が進学者全体の8割となっていることがあると考えられる。この種の推薦入試が本格的に始まるのが8月以降だとすると、余裕をもって試験対策等の準備をするために、高校3年生の1学期前後には進学する短大の受験を決定するケースが多くなると推測される。また夏休み前後はオープンキャンパスも数多く実施されるので、そこで入試に関する情報を収集し、進学を後押ししている可能性も考えられる。

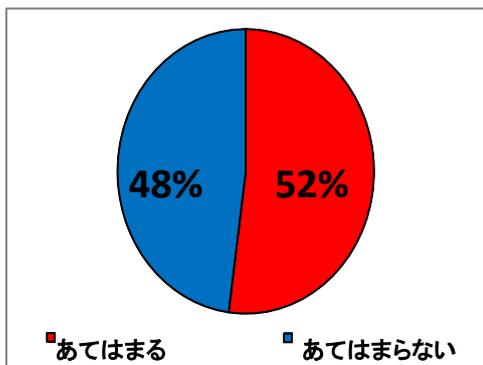
[35-1] あなたのご家族の中に、大学や短大を卒業した人いらっしゃいますか。



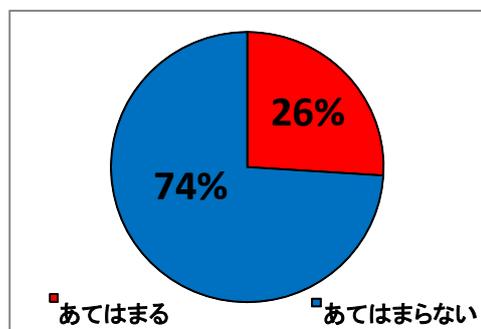
問 35 は短大生の家族内に大学や短大といった高等教育機関卒業者がいるかどうか尋ねている。これを見ると、家族内に高等教育卒業者がいると回答した短大生は 46.9%で、誰もいないのが 48.3%となっている。

〔35-2〕 ご家族のうちで大学や短大を卒業した方は、次のうちどなたですか。

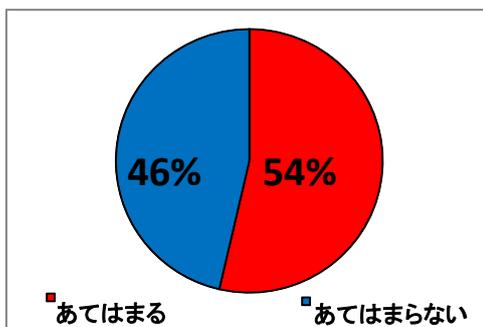
- 父親が大学や短大を卒業



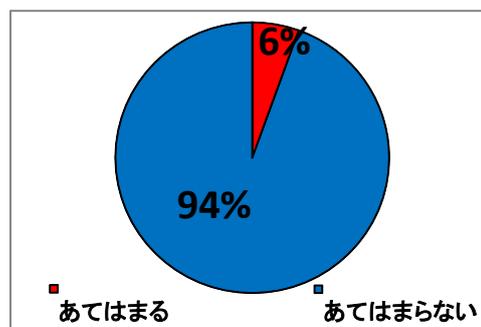
- 姉妹が大学や短大を卒業



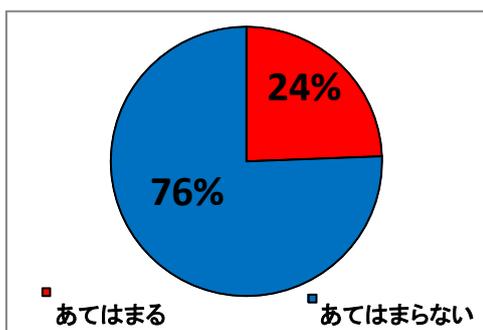
- 母親が大学や短大を卒業



- その他の誰かが大学や短大を卒業

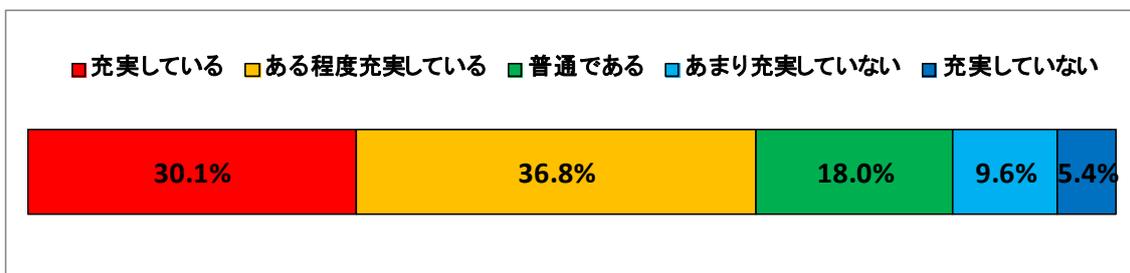


- 兄弟が大学や短大を卒業



次に問 35-1 で家族内に高等教育卒業者がいると答えた短大生（該当者 3237 名）に対して、家族のうち誰が卒業しているのか聞いたところ、次のような回答状況になった。なお、この設問は複数回答可としている。これを見ると、「父親」が 52.1%、「母親」が 53.6%となっている。「兄弟」は 24.3%、「姉妹」は 26.0%である。両親の半数が大学及び短大を卒業しており、子どもに対しても自分たちと同じように高等教育機関に進学させていると考えられる。

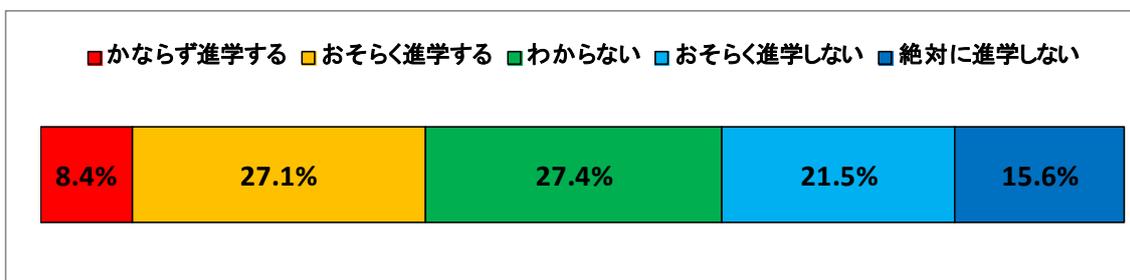
[36] あなたの学生生活は充実していますか。



短大生の学生生活全般に対する充実感について問 36 で尋ねた結果、以下のような回答結果が得られた。

これを見ると「充実している」と回答した短大生は 30.1%、「ある程度充実している」と回答したのが 36.8%であることから、7 割近くの短大生が現在の学生生活に充実していることがわかる。それとは反対に「充実していない」と答えた短大生は 5.4%、「あまり充実していない」は 9.6%である。この結果から、多くの短大生が短大での生活に充実感を感じている一方で、約 7 人に 1 人の割合で充実した学生生活を送れていない短大生がいることが読み取れる。

[37] もし大学や短大を選び直せたら、あなたはもう一度、本学に進学しますか。



問 37 は短大生に対して「もし選び直せたら、もう一度本学に進学するか」どうかを尋ねている。

これによると「かならず進学する」と回答した短大生は 8.4%、「おそらく進学する」は 27.1%となっている。このことから 3 人に 1 人の割合で、現在所属している短大に再度進学する意向があるとわかる。その一方で、「絶対に進学しない」と答えた短大生が 15.6%、「おそらく進学しない」は 21.5%となっており、3 割程度の短大生が今の短大に進学するとは限らないと考えている。また「わからない」と答えた短大生も 27.4%もいて、回答時点で現在の短大が再度入学するにふさわしいかどうか、判断できない人も 3 割弱いる。

第2部 集計一覧

[1] あなたの性別をお答えください。

	度数	パーセント
男性	967	10.1
女性	8628	89.9
合計	9595	100.0
無回答	42	

[2] 今年度(2010年4月～2011年3月)、あなたは何歳になりますか。

	度数	パーセント
18歳以下	326	3.4
19歳	4875	50.9
20歳	3388	35.3
21-23歳	629	6.6
24-29歳	209	2.2
30-39歳	97	1.0
40-54歳	49	0.5
55歳以上	14	0.1
合計	9587	100.0
無回答	50	

[3] あなたは本学に何年度に入学しましたか。

	度数	パーセント
2年制	8084	84.7
3年制	1462	15.3
合計	9546	100.0
無回答	91	

[4] あなたは本学に何年度に入学しましたか。

	度数	パーセント
2011(平成23)年度	5390	56.2
2010(平成22)年度	3720	38.8
2009(平成21)年度か、それ以前	478	5.0
合計	9588	100.0
無回答	49	

[5] あなたの現在の在学状況を教えてください。

	度数	パーセント
1年生(回生)	5447	56.8
2年生(回生)	3781	39.4
3年生(回生)以上	360	3.8
その他(科目等履修生など)	10	0.1
合計	9598	100.0
無回答	39	

[6] あなたの現在の住まいは次のうちどれですか。

	度数	パーセント
実家または親戚の家	7109	74.1
アパートやマンション	1697	17.7
大学の寮や下宿	720	7.5
その他	66	0.7
合計	9592	100.0
無回答	45	

[7] あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

	度数	パーセント
30分未満	3173	33.1
30分以上－1時間未満	2883	30.1
1時間以上－1時間30分未満	2003	20.9
1時間30分以上－2時間未満	1239	12.9
2時間以上	295	3.1
合計	9593	100.0
無回答	44	

[8] あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

	度数	パーセント
上位の方	1102	11.5
中の上くらい	2191	22.9
中くらい	2910	30.4
中の下くらい	1737	18.1
下位の方	1247	13.0
その他(わからない,覚えていない,など)	399	4.2
合計	9586	100.0
無回答	51	

[9(1)] あなたの高校は公立(県立・市立など)、私立、国立のどれでしたか。

	度数	パーセント
公立	6580	68.6
私立	2881	30.0
国立	38	0.4
その他	93	1.0
合計	9592	100.0
無回答	45	

[9(2)] あなたの高校は男女共学でしたか、別学でしたか。

	度数	パーセント
共学	8360	87.3
別学	1216	12.7
合計	9576	100.0
無回答	61	

[10-1]あなたは奨学金(貸与を含む)や授業料免除など経済的な援助を受けていますか(日本学生支援機構の奨学金)。

	度数	パーセント
受けていない	6089	63.2
受けている	3548	36.8
合計	9637	100.0

[10-2]あなたは奨学金(貸与を含む)や授業料免除など経済的な援助を受けていますか(地方自治体の奨学金)。

	度数	パーセント
受けていない	9350	97.0
受けている	287	3.0
合計	9637	100.0

[10-3]あなたは奨学金(貸与を含む)や授業料免除など経済的な援助を受けていますか(民間団体の奨学金)。

	度数	パーセント
受けていない	9517	98.8
受けている	120	1.2
合計	9637	100.0

[10-4]あなたは奨学金(貸与を含む)や授業料免除など経済的な援助を受けていますか(短大の奨学金や授業料免除)。

	度数	パーセント
受けていない	8582	89.1
受けている	1055	10.9
合計	9637	100.0

[10-5]あなたは奨学金(貸与を含む)や授業料免除など経済的な援助を受けていますか(その他の経済的援助)。

	度数	パーセント
受けていない	9014	93.5
受けている	623	6.5
合計	9637	100.0

〔11-1〕入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(単位を取得できなかった授業があった)。

	度数	パーセント
あてはまらない	8070	83.7
あてはまる	1567	16.3
合計	9637	100.0

〔11-2〕入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(学力不足を補うため補習授業を履修した)。

	度数	パーセント
あてはまらない	8684	90.1
あてはまる	953	9.9
合計	9637	100.0

〔11-3〕入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(人権や民族に関する授業を履修した)。

	度数	パーセント
あてはまらない	7423	77.0
あてはまる	2214	23.0
合計	9637	100.0

〔11-4〕入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(女性学の授業を履修した)。

	度数	パーセント
あてはまらない	8959	93.0
あてはまる	678	7.0
合計	9637	100.0

〔11-5〕入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(リーダー養成やキャリア開発の訓練に参加した)。

	度数	パーセント
あてはまらない	9147	94.9
あてはまる	490	5.1
合計	9637	100.0

〔11-6〕入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(海外研修プログラムに参加した)。

	度数	パーセント
あてはまらない	9417	97.7
あてはまる	220	2.3
合計	9637	100.0

[11-7] 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(他の大学や短大、高等専門学校などの科目を履修して卒業単位に算入した)。

	度数	パーセント
あてはまらない	9363	97.2
あてはまる	274	2.8
合計	9637	100.0

[11-8] 入学以来、あなたは以下の項目のことをしましたか(他の大学や短大、高等専門学校などから転学した)。

	度数	パーセント
あてはまらない	9599	99.6
あてはまる	38	0.4
合計	9637	100.0

[12] あなたが本学に進学した理由として、次のことがらはどの程度重要でしたか。

	まったく重要でない	あまり重要でない	少し重要	とても重要	合計	無回答
親の希望だった	3784 39.5	2893 30.2	2268 23.7	632 6.6	9577 100.0	60
親族・親せきから進学を勧められた	6476 67.7	2017 21.1	870 9.1	209 2.2	9572 100.0	65
高校の先生に勧められた	3767 39.4	2500 26.1	2387 25.0	910 9.5	9564 100.0	73
予備校や塾で勧められた	7740 81.2	1220 12.8	453 4.7	124 1.3	9537 100.0	100
学費が適当であった	3654 38.2	2509 26.3	2330 24.4	1065 11.1	9558 100.0	79
奨学金が支給された	5006 52.7	1663 17.5	1528 16.1	1309 13.8	9506 100.0	131
自宅から通学できる	1943 20.3	1005 10.5	2528 26.4	4082 42.7	9558 100.0	79
就職に有利	1183 12.4	1535 16.1	3327 34.8	3515 36.8	9560 100.0	77
四年制大学より早く就職できる	2269 23.7	2387 25.0	2840 29.7	2060 21.6	9556 100.0	81
高校卒業後すぐに働きたくなかった	3200 33.5	2235 23.4	2411 25.2	1703 17.8	9549 100.0	88
本学で学ぶ内容に興味があった	736 7.7	1329 13.9	3479 36.4	4013 42.0	9557 100.0	80
専門学校より幅広い勉強ができる	1519 15.9	2666 27.9	3387 35.4	1992 20.8	9564 100.0	73
学生生活を楽しんでみたかった	1197 12.5	1755 18.4	3807 39.8	2805 29.3	9564 100.0	73
本学の校風に魅力があった	2202 23.0	3212 33.6	2889 30.2	1262 13.2	9565 100.0	72
本学のキャンパスがきれいだった	2526 26.4	3168 33.1	2607 27.2	1267 13.2	9568 100.0	69
資格をとるために必要だった	757 7.9	1177 12.3	2475 25.9	5161 53.9	9570 100.0	67
大学に編入することもできる	3769 39.4	2751 28.8	1802 18.8	1242 13.0	9564 100.0	73
推薦入試等で入学が早く内定した	2521 26.4	1407 14.7	2435 25.5	3188 33.4	9551 100.0	86

[13]あなたは留学生ですか。(1つだけ選んで○をつけてください)

	度数	パーセント
はい	66	0.7
いいえ	9409	99.3
合計	9475	100.0
無回答	162	

[14] あなたは次の科目について、学習補助や補習授業など特別な学習支援を受けていますか。また、そのような支援を受けたいと思いますか。

	特別な学習支援を現在		合計	無回答	特別な学習支援を今後		合計	無回答
	受けている	受けていない			受けたい	受けたくない		
文章表現	530 7.0	7058 93.0	7588 100	2049	2783 47.7	3054 52.3	5837 100	3800
数学	208 2.8	7298 97.2	7506 100	2131	1265 21.4	4644 78.6	5909 100	3728
理科	280 3.7	7258 96.3	7538 100	2099	1227 20.9	4646 79.1	5873 100	3764
英語	907 12.1	6595 87.9	7502 100	2135	2391 40.5	3518 59.5	5909 100	3728

〔15〕入学してから、あなたは次の項目をどれくらいしましたか。

	まったく しなかった	あまり しなかった	ときどき した	ひんばんに した	合計	無回答
学際的な授業を履修した	3559 37.7	3010 31.9	2071 21.9	796 8.4	9436 100	201
自主的な学習プロジェクトに参加した	4815 50.5	3115 32.7	1312 13.8	288 3.0	9530 100	107
授業内容について他の学生と議論した	2944 30.8	2765 29.0	2930 30.7	908 9.5	9547 100	90
教員と懇親会を持った	6928 72.6	1431 15.0	972 10.2	213 2.2	9544 100	93
スポーツに参加した	4751 49.8	1731 18.2	1815 19.0	1239 13.0	9536 100	101
提出期限までに宿題を完成できなかった	3623 37.9	2728 28.6	2623 27.5	581 6.1	9555 100	82
授業をつまらなく感じた	522 5.5	1862 19.5	5004 52.4	2163 22.6	9551 100	86
授業に遅刻した	2541 26.6	2653 27.8	3228 33.8	1133 11.9	9555 100	82
他の学生と一緒に勉強した	1558 16.3	1925 20.2	3886 40.7	2175 22.8	9544 100	93
ボランティア活動をした	4670 49.0	1933 20.3	1973 20.7	963 10.1	9539 100	98
インターネットを使って授業課題を受けた	3309 34.7	1739 18.2	2715 28.5	1767 18.5	9530 100	107
インターネットを使って授業課題を提出した	2742 28.7	1612 16.9	3189 33.4	1995 20.9	9538 100	99
研究や宿題のためにWeb上の情報を利用した	1030 10.8	1165 12.2	3707 38.9	3630 38.1	9532 100	105
Web上でニュースを読んだ	1698 17.8	1894 19.9	2909 30.6	3019 31.7	9520 100	117
Web上でブログを読んだ	1742 18.2	1489 15.6	2621 27.4	3722 38.9	9574 100	63
Web上でブログを書いた	3526 36.8	1711 17.9	2078 21.7	2257 23.6	9572 100	65
研究や宿題のために図書館を利用した	1612 16.9	1942 20.3	3697 38.7	2313 24.2	9564 100	73
アルバイトなどで授業を欠席した	6670 69.8	1638 17.1	965 10.1	286 3.0	9559 100	78
その他の理由で授業を欠席した	1856 19.4	3066 32.1	3526 36.9	1116 11.7	9564 100	73
他の学生の学習補助をした	6713 70.3	1939 20.3	745 7.8	149 1.6	9546 100	91
将来のキャリアの相談をした	3825 40.0	2845 29.8	2179 22.8	708 7.4	9557 100	80
授業中に居眠りをした	1006 10.5	2153 22.5	4272 44.7	2136 22.3	9567 100	70
取りたい授業を履修登録できなかった	6546 68.4	1720 18.0	946 9.9	354 3.7	9566 100	71
楽器を演奏した	4712 49.3	1185 12.4	1604 16.8	2062 21.6	9563 100	74
教員と面談した	5408 56.7	2542 26.7	1321 13.9	264 2.8	9535 100	102
教員の考え方や意見に異議を唱えた	5618 58.8	2695 28.2	994 10.4	251 2.6	9558 100	79
教員に親近感を感じた	2254 23.6	3069 32.1	3241 33.9	984 10.3	9548 100	89

[16]あなたが本学で専攻する専門分野はどれですか。

	度数	パーセント
保健衛生(医療衛生、歯科衛生、放射線技術など)	464	4.9
看護	373	3.9
農工(園芸、自動車工業、機械工学など)	22	0.2
人文(文学、英語、国際コミュニケーション、国際文化、人間関係、宗教など)	1012	10.6
経営(経営情報、現代ビジネス、秘書など)	413	4.3
福祉(社会福祉、介護福祉、健康福祉など)	523	5.5
家政(家政、服飾・ファッション、ライフデザインなど)	307	3.2
栄養(健康栄養、食生活、製菓など)	1395	14.7
教育(こども、児童教育、保育など)	4276	45.0
芸術(音楽、造形、美術・デザイン、美容など)	287	3.0
その他	434	4.6
合計	9506	100.0
無回答	131	

[17]あなたは将来的に、どの程度まで進学を考えていますか。

	短期大学 を卒業	短期大学の 専攻科を卒業	大学・大学院 を卒業	その他	合計	無回答
度数	7687	743	798	311	9539	98
パーセント	80.6	7.8	8.4	3.3	100.0	

[18]あなたは今年度、次の活動に1週間あたりどれくらいの時間を費やしましたか。

	0時間	1時間 未満	1-2 時間	3-5 時間	6-10 時間	11-15 時間	16-20 時間	20時間 以上	合計	無回答
勉強や宿題	987 10.3	2336 24.5	2296 24.0	1956 20.5	988 10.3	385 4.0	216 2.3	390 4.1	9554 100.0	83
授業への出席	178 1.9	228 2.4	295 3.1	489 5.1	788 8.3	1062 11.1	1605 16.9	4880 51.2	9525 100.0	112
友人との交際	245 2.6	573 6.0	1013 10.6	1753 18.4	1925 20.2	974 10.2	716 7.5	2322 24.4	9521 100.0	116
授業以外での教員との会話	1973 20.7	5175 54.2	1373 14.4	580 6.1	238 2.5	107 1.1	37 0.4	63 0.7	9546 100.0	91
運動やスポーツ	2626 27.5	2958 31.0	1977 20.7	1027 10.8	467 4.9	172 1.8	96 1.0	210 2.2	9533 100.0	104
アルバイト	3099 32.5	217 2.3	249 2.6	658 6.9	1319 13.8	1437 15.1	1170 12.3	1397 14.6	9546 100.0	91
ボランティア活動	7126 74.7	1038 10.9	500 5.2	435 4.6	219 2.3	73 0.8	41 0.4	102 1.1	9534 100.0	103
部活動や同好会	6674 70.0	765 8.0	714 7.5	671 7.0	334 3.5	127 1.3	74 0.8	178 1.9	9537 100.0	100
テレビ鑑賞	456 4.8	883 9.3	1407 14.7	1939 20.3	1773 18.6	963 10.1	640 6.7	1478 15.5	9539 100.0	98
家事手伝い	1318 13.8	2737 28.7	2015 21.2	1393 14.6	834 8.8	417 4.4	225 2.4	586 6.2	9525 100.0	112
趣味としての読書	4654 48.8	2232 23.4	1188 12.5	696 7.3	356 3.7	164 1.7	86 0.9	165 1.7	9541 100.0	96
携帯電話の使用	123 1.3	598 6.3	908 9.5	1335 14.0	1309 13.7	965 10.1	879 9.2	3419 35.9	9536 100.0	101
インターネット上での友人との交流	2640 27.7	1992 20.9	1269 13.3	1079 11.3	773 8.1	456 4.8	400 4.2	931 9.8	9540 100.0	97

[19]あなたは今年度、次のことがらをどの程度経験しましたか。

	まったく なかった	あまり なかった	ときどき あった	ひんぱん にあった	合計	無回答
礼拝や宗教的な活動に参加した	6157 64.4	1148 12.0	1545 16.2	715 7.5	9565 100.0	72
政治的な活動に参加した	8505 88.9	770 8.0	212 2.2	81 0.8	9568 100.0	69
喫煙した	8360 87.5	359 3.8	332 3.5	503 5.3	9554 100.0	83
アルコール飲料を飲んだ	4097 42.9	1923 20.1	2648 27.7	882 9.2	9550 100.0	87
やるべきことの多さに圧倒された	1080 11.3	1414 14.8	3433 36.0	3621 37.9	9548 100.0	89
留学生と交流した	7619 79.7	967 10.1	674 7.0	304 3.2	9564 100.0	73
宗教について討論した	8264 86.4	865 9.0	319 3.3	117 1.2	9565 100.0	72
政治について討論した	7810 81.7	1155 12.1	466 4.9	129 1.3	9560 100.0	77
ゆううつで落ち込んだ	2163 22.6	2227 23.3	3201 33.5	1971 20.6	9562 100.0	75
個人的にカウンセリングを求めた	7987 83.6	873 9.1	461 4.8	232 2.4	9553 100.0	84

[20]あなたは、同年齢の人たちと比べて、次のことがらについてどのように自己評価しますか。

	下位 10%	平均 以下	平均	平均 以上	上位 10%	合計	無回答
一般的な教養	372 3.9	1869 19.6	5922 62.0	1149 12.0	244 2.6	9556 100.0	81
学力	535 5.6	2931 30.6	5110 53.4	839 8.8	149 1.6	9564 100.0	73
芸術的な能力	926 9.7	2824 29.5	3932 41.1	1524 15.9	352 3.7	9558 100.0	79
競争心	672 7.0	1941 20.3	4078 42.7	2229 23.3	634 6.6	9554 100.0	83
コンピュータの操作能力	1019 10.7	2462 25.8	3997 41.8	1692 17.7	387 4.0	9557 100.0	80
協調性	394 4.1	1406 14.7	4631 48.5	2398 25.1	727 7.6	9556 100.0	81
創造性	451 4.7	2055 21.5	4760 49.8	1779 18.6	508 5.3	9553 100.0	84
やる気	486 5.1	1514 15.9	4454 46.7	2239 23.5	852 8.9	9545 100.0	92
情緒面での安定度	761 8.0	2128 22.3	4592 48.1	1458 15.3	610 6.4	9549 100.0	88
リーダーシップ	1302 13.6	2669 28.0	3862 40.4	1329 13.9	386 4.0	9548 100.0	89
ねばり強さ	470 4.9	1604 16.8	4242 44.4	2326 24.3	922 9.6	9564 100.0	73
数理的な能力	1737 18.2	3425 35.8	3385 35.4	839 8.8	175 1.8	9561 100.0	76
体の健康	386 4.0	1494 15.6	4491 47.0	2017 21.1	1172 12.3	9560 100.0	77
プレゼンテーションの能力	1197 12.5	3535 37.0	3845 40.2	800 8.4	181 1.9	9558 100.0	79
チャレンジ精神	523 5.5	1937 20.3	4493 47.0	1871 19.6	734 7.7	9558 100.0	79
知的面での自信	929 9.7	2932 30.7	4627 48.5	872 9.1	189 2.0	9549 100.0	88
社交面での自信	754 7.9	2157 22.6	4407 46.1	1650 17.3	589 6.2	9557 100.0	80
自己の理解	403 4.2	1557 16.3	5296 55.4	1763 18.5	532 5.6	9551 100.0	86
スピリチュアリティ	663 6.9	2032 21.3	5460 57.2	1055 11.1	336 3.5	9546 100.0	91
信仰心	1683 17.7	2638 27.7	4418 46.4	574 6.0	211 2.2	9524 100.0	113
他者の理解	345 3.6	1171 12.3	5404 56.6	2142 22.4	491 5.1	9553 100.0	84
文章表現の能力	827 8.7	2807 29.4	4631 48.5	1045 10.9	239 2.5	9549 100.0	88
文章読解の能力	754 7.9	2576 27.0	4734 49.6	1223 12.8	258 2.7	9545 100.0	92
外国語の能力	2210 23.2	3352 35.1	3299 34.6	562 5.9	114 1.2	9537 100.0	100

〔21〕あなたは、本学の次のことがらに、どの程度満足していますか。(※「わからない」を欠損値扱い)

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	合計	(欠損値)	
							わからない	無回答
コンピュータの施設や設備	350 3.9%	1001 11.1%	3356 37.3%	3296 36.7%	990 11.0%	8993 100.0%	558	86
コンピュータの訓練や援助	353 4.0%	1027 11.7%	4415 50.3%	2479 28.2%	503 5.7%	8777 100.0%	764	96
インターネットの使いやすさ	471 5.3%	1249 14.0%	3671 41.1%	2787 31.2%	751 8.4%	8929 100.0%	618	90
図書館の設備	326 3.6%	824 9.2%	3050 33.9%	3415 38.0%	1369 15.2%	8984 100.0%	549	104
実験室・実習室の設備や器具	305 4.1%	705 9.4%	3608 48.0%	2249 29.9%	653 8.7%	7520 100.0%	2000	117
就職の斡旋サービス	367 4.7%	815 10.3%	3676 46.7%	2310 29.3%	707 9.0%	7875 100.0%	1657	105
キャリアカウンセリング	326 4.5%	734 10.2%	3949 54.8%	1720 23.8%	483 6.7%	7212 100.0%	2321	104
奨学金など学費援助の制度	268 3.7%	590 8.1%	3654 50.2%	2142 29.4%	620 8.5%	7274 100.0%	2256	107
ボランティア活動の機会	275 3.7%	706 9.4%	4080 54.6%	1853 24.8%	559 7.5%	7473 100.0%	2057	107
健康保健サービス	238 3.6%	532 8.1%	4363 66.1%	1192 18.1%	273 4.1%	6598 100.0%	2930	109
下宿やアパートの斡旋や紹介	355 6.0%	641 10.9%	3683 62.6%	971 16.5%	233 4.0%	5883 100.0%	3653	101
リーダーシップ発揮の機会	273 3.8%	646 9.1%	4764 67.0%	1166 16.4%	258 3.6%	7107 100.0%	2415	115
レクリエーション施設	431 6.4%	890 13.3%	4091 60.9%	1064 15.8%	239 3.6%	6715 100.0%	2818	104
心理相談やカウンセリングサービス	321 5.2%	571 9.2%	3999 64.4%	1060 17.1%	260 4.2%	6211 100.0%	3314	112

〔21〕あなたは、本学の次のことがらに、どの程度満足していますか。(※「わからない」を有効値扱い)

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	わからない	合計	無回答
コンピュータの施設や設備	350 3.7%	1001 10.5%	3356 35.1%	3296 34.5%	990 10.4%	558 5.8%	9551 100.0%	86
コンピュータの訓練や援助	353 3.7%	1027 10.8%	4415 46.3%	2479 26.0%	503 5.3%	764 8.0%	9541 100.0%	96
インターネットの使いやすさ	471 4.9%	1249 13.1%	3671 38.5%	2787 29.2%	751 7.9%	618 6.5%	9547 100.0%	90
図書館の設備	326 3.4%	824 8.6%	3050 32.0%	3415 35.8%	1369 14.4%	549 5.8%	9533 100.0%	104
実験室・実習室の設備や器具	305 3.2%	705 7.4%	3608 37.9%	2249 23.6%	653 6.9%	2000 21.0%	9520 100.0%	117
就職の斡旋サービス	367 3.9%	815 8.6%	3676 38.6%	2310 24.2%	707 7.4%	1657 17.4%	9532 100.0%	105
キャリアカウンセリング	326 3.4%	734 7.7%	3949 41.4%	1720 18.0%	483 5.1%	2321 24.3%	9533 100.0%	104
奨学金など学費援助の制度	268 2.8%	590 6.2%	3654 38.3%	2142 22.5%	620 6.5%	2256 23.7%	9530 100.0%	107
ボランティア活動の機会	275 2.9%	706 7.4%	4080 42.8%	1853 19.4%	559 5.9%	2057 21.6%	9530 100.0%	107
健康保健サービス	238 2.5%	532 5.6%	4363 45.8%	1192 12.5%	273 2.9%	2930 30.8%	9528 100.0%	109
下宿やアパートの斡旋や紹介	355 3.7%	641 6.7%	3683 38.6%	971 10.2%	233 2.4%	3653 38.3%	9536 100.0%	101
リーダーシップ発揮の機会	273 2.9%	646 6.8%	4764 50.0%	1166 12.2%	258 2.7%	2415 25.4%	9522 100.0%	115
レクリエーション施設	431 4.5%	890 9.3%	4091 42.9%	1064 11.2%	239 2.5%	2818 29.6%	9533 100.0%	104
心理相談やカウンセリングサービス	321 3.4%	571 6.0%	3999 42.0%	1060 11.1%	260 2.7%	3314 34.8%	9525 100.0%	112

[22] 本学の短大教員は、あなたに次のような活動をどのくらい提供しましたか。

	まったく なかった	あまり なかった	ときどき あった	ひんぱんに あった	合計	無回答
就職や編入学など進路選択の励まし	1541 16.2%	2979 31.3%	3903 41.0%	1106 11.6%	9529 100.0%	108
研究プロジェクトに関わる機会	3467 36.4%	3910 41.1%	1871 19.7%	270 2.8%	9518 100.0%	119
教育課程や授業に対する助言や指導	1127 11.8%	2876 30.2%	4339 45.5%	1187 12.5%	9529 100.0%	108
心の支えや励まし	1779 18.7%	3433 36.0%	3437 36.1%	882 9.3%	9531 100.0%	106
推薦状の執筆	4275 45.1%	3387 35.7%	1577 16.6%	248 2.6%	9487 100.0%	150
学習能力を向上するための手助け	1567 16.5%	3470 36.4%	3761 39.5%	723 7.6%	9521 100.0%	116
成績評価以外の学習アドバイス	1791 18.8%	3545 37.2%	3483 36.5%	712 7.5%	9531 100.0%	106
知的にやりがいのある課題や励まし	1945 20.4%	4020 42.2%	3059 32.1%	491 5.2%	9515 100.0%	122
授業以外でも学習内容を話し合う機会	2181 22.9%	3831 40.2%	2936 30.8%	579 6.1%	9527 100.0%	110
専門的な目標を達成する手助け	1717 18.1%	3404 35.8%	3555 37.4%	834 8.8%	9510 100.0%	127
教室での学習を「実生活」に応用する機会	2000 21.1%	3900 41.1%	3061 32.2%	537 5.7%	9498 100.0%	139

[23]入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか

	大きく 減った	減った	変化なし	増えた	大きく 増えた	合計	無回答
一般的な教養	119 1.3%	440 4.7%	3379 35.9%	4906 52.1%	567 6.0%	9411 100.0%	226
分析や問題解決能力	109 1.2%	392 4.2%	4621 49.1%	3961 42.1%	327 3.5%	9410 100.0%	227
専門分野や学科の知識	81 0.9%	197 2.1%	1972 21.0%	4855 51.6%	2307 24.5%	9412 100.0%	225
批判的に考える能力	114 1.2%	523 5.6%	5247 55.8%	3107 33.0%	413 4.4%	9404 100.0%	233
異文化の人々に関する知識	189 2.0%	494 5.3%	5582 59.3%	2682 28.5%	459 4.9%	9406 100.0%	231
リーダーシップの能力	156 1.7%	557 5.9%	5937 63.1%	2421 25.7%	335 3.6%	9406 100.0%	231
人間関係を構築する能力	137 1.5%	436 4.6%	3812 40.5%	4225 44.9%	802 8.5%	9412 100.0%	225
他の人と協力して物事を遂行する能力	106 1.1%	392 4.2%	3466 36.8%	4427 47.1%	1016 10.8%	9407 100.0%	230
異文化の人々と協力する能力	267 2.8%	586 6.2%	6666 70.9%	1604 17.1%	274 2.9%	9397 100.0%	240
地域社会が直面する問題の理解	153 1.6%	456 4.9%	5806 61.8%	2646 28.2%	329 3.5%	9390 100.0%	247
国民が直面する問題の理解	153 1.6%	438 4.7%	5811 61.9%	2704 28.8%	287 3.1%	9393 100.0%	244
グローバルな問題の理解	167 1.8%	499 5.3%	6451 68.7%	2035 21.7%	235 2.5%	9387 100.0%	250
文章表現の能力	139 1.5%	526 5.6%	5030 53.5%	3342 35.5%	364 3.9%	9401 100.0%	236
外国語の運用能力	348 3.7%	992 10.6%	5974 63.6%	1845 19.6%	238 2.5%	9397 100.0%	240
コミュニケーションの能力	137 1.5%	368 3.9%	4003 42.6%	4110 43.7%	785 8.3%	9403 100.0%	234
プレゼンテーションの能力	153 1.6%	428 4.6%	5886 62.6%	2592 27.6%	337 3.6%	9396 100.0%	241
数理的な能力	483 5.1%	1463 15.6%	6245 66.5%	1093 11.6%	109 1.2%	9393 100.0%	244
コンピュータの操作能力	143 1.5%	433 4.6%	4371 46.5%	3790 40.3%	660 7.0%	9397 100.0%	240
時間を効果的に利用する能力	142 1.5%	520 5.5%	4419 47.0%	3668 39.0%	647 6.9%	9396 100.0%	241
卒業するための準備の程度	166 1.8%	346 3.7%	3996 42.6%	3999 42.6%	883 9.4%	9390 100.0%	247

[24] 本学に入学してから、あなたは次の項目にどのくらいうまくいきましたか。

	まったく うまくい なかつた	あまり うまくい なかつた	い くら か う ま く い っ た	と と も う ま く い っ た	合 計	無 回 答
学生向けサービスを上手に利用する	903 9.6%	3864 41.2%	4175 44.5%	433 4.6%	9375 100.0%	262
大学教員の学問的な期待を理解する	807 8.6%	4400 46.9%	3865 41.2%	309 3.3%	9381 100.0%	256
効果的に学習する技能を修得する	618 6.6%	3711 39.6%	4618 49.2%	434 4.6%	9381 100.0%	256
大学が求める水準に応じて学習する	646 6.9%	3895 41.6%	4403 47.0%	430 4.6%	9374 100.0%	263
時間を効果的に使う	551 5.9%	3069 32.7%	4861 51.8%	896 9.6%	9377 100.0%	260
大学教員と顔見知りになる	514 5.5%	2331 24.9%	5144 54.8%	1390 14.8%	9379 100.0%	258
他の学生との友情を深める	431 4.6%	1471 15.7%	4602 49.1%	2876 30.7%	9380 100.0%	257

[25] あなたの本学での成績はどれくらいですか。

	度 数	パー セント
上位の方	565	6.0%
中の上くらい	1450	15.5%
中くらい	3081	32.9%
中の下くらい	1756	18.7%
下位の方	1380	14.7%
その他	1144	12.2%
合計	9376	100.0%
無回答	261	

[26]あなたの人生にとって、次のことがらほどの程度重要ですか。

	まったく 重要でない	あまり 重要でない	少し 重要	とても 重要	合計	無回答
専門分野で第一人者になる	1371 14.6%	3672 39.1%	3237 34.5%	1105 11.8%	9385 100.0%	252
専門分野で仲間に認められる	495 5.3%	1763 18.8%	4643 49.5%	2482 26.5%	9383 100.0%	254
政治的な活動にたずさわる	3176 33.9%	3948 42.1%	1916 20.4%	335 3.6%	9375 100.0%	262
社会の価値観に影響を与える	1964 21.0%	3746 40.0%	2934 31.3%	718 7.7%	9362 100.0%	275
家族を養う	365 3.9%	1405 15.0%	4083 43.6%	3515 37.5%	9368 100.0%	269
家庭を築く	430 4.6%	1190 12.7%	3254 34.7%	4491 48.0%	9365 100.0%	272
企業や団体などで管理職になる	2000 21.4%	4279 45.7%	2487 26.6%	590 6.3%	9356 100.0%	281
会社などで出世する	1311 14.0%	3153 33.7%	3608 38.5%	1297 13.8%	9369 100.0%	268
お金持ちになる	652 7.0%	2556 27.3%	3950 42.1%	2218 23.7%	9376 100.0%	261
困っている人の役に立つ	313 3.3%	1171 12.5%	4023 43.0%	3854 41.2%	9361 100.0%	276
文芸作品を執筆する	3900 41.7%	3449 36.8%	1595 17.0%	419 4.5%	9363 100.0%	274
芸術作品を製作する	3791 40.5%	3249 34.7%	1772 18.9%	552 5.9%	9364 100.0%	273
舞台芸術で成功する	3946 42.2%	3191 34.1%	1700 18.2%	520 5.6%	9357 100.0%	280
ビジネスで成功する	2050 21.9%	3164 33.8%	3030 32.4%	1111 11.9%	9355 100.0%	282
環境を守るための活動に参加	1279 13.7%	3330 35.6%	3802 40.6%	948 10.1%	9359 100.0%	278
人生の意味を深く考える	739 7.9%	2329 24.9%	4084 43.7%	2202 23.5%	9354 100.0%	283
地域社会の活動に参加する	1055 11.3%	3099 33.1%	4000 42.7%	1205 12.9%	9359 100.0%	278
人権意識の向上に役立つ	1258 13.4%	3670 39.2%	3551 38.0%	877 9.4%	9356 100.0%	281
政治の動向に関心を持つ	1850 19.8%	3742 40.1%	3095 33.1%	656 7.0%	9343 100.0%	294
地域社会のリーダーになる	2631 28.2%	4378 46.9%	1933 20.7%	399 4.3%	9341 100.0%	296
精神性や信仰心を生活に反映させる	2212 23.7%	3956 42.4%	2570 27.5%	603 6.5%	9341 100.0%	296
多様な社会や文化を理解する	999 10.7%	2632 28.2%	4044 43.4%	1645 17.7%	9320 100.0%	317
友人関係を大切にする	157 1.7%	517 5.5%	2277 24.4%	6382 68.4%	9333 100.0%	304
自分の生きたい人生を送る	128 1.4%	464 5.0%	2175 23.3%	6567 70.4%	9334 100.0%	303

[27]次のうち、女性の生き方として

あなたの考えに最も近いものはどれですか。

女性の生き方の回答割合(全体傾向)

	度数	パーセント
結婚しないで仕事を続ける	335	3.6%
結婚や出産をしても仕事を続ける	3345	36.1%
結婚や出産時に仕事をやめる	1228	13.2%
子どもの手が離れたら再び働く	4198	45.3%
就職はしないで結婚する	165	1.8%
合計	9271	100.0%
無回答	366	

女性の生き方の回答割合(女子学生のみ)

	度数	パーセント
結婚しないで仕事を続ける	295	3.5%
結婚や出産をしても仕事を続ける	3011	35.9%
結婚や出産時に仕事をやめる	1063	12.7%
子どもの手が離れたら再び働く	3889	46.3%
就職はしないで結婚する	134	1.6%
合計	8392	100.0%

[28]卒業後に就職を予定している場合、
 あなたの現在の状況を教えてください
 現在の就職活動の状態(全体傾向)

	度数	パーセント
積極的には職を探していない	2505	27.8%
就職活動中であるが、内定が無い	1798	19.9%
内定を受けたが、断った	144	1.6%
ある内定を受けるかどうか考慮中	481	5.3%
内定が決定した	1731	19.2%
今年は就職を考えていない	2357	26.1%
合計	9016	100.0%
無回答	621	

現在の就職活動の状態(学年別傾向)

	1年生		2年生以上		合計	
	度数	パーセント	度数	パーセント	度数	パーセント
積極的には職を探していない	1865	74.5%	637	25.5%	2502	100.0%
就職活動中であるが、内定が無い	745	41.5%	1049	58.5%	1794	100.0%
内定を受けたが、断った	62	43.7%	80	56.3%	142	100.0%
ある内定を受けるかどうか考慮中	299	62.6%	179	37.4%	478	100.0%
内定が決定した	163	9.4%	1566	90.6%	1729	100.0%
今年は就職を考えていない	1908	81.1%	446	18.9%	2354	100.0%
合計	5042	56.0%	3957	44.0%	8999	100.0%

[29]あなたは将来、どのような職業やキャリアに進みたいですか。

	度数	パーセント
建築士や都市設計士	11	0.1%
エンジニア	8	0.1%
プログラマー	12	0.1%
歯科医	20	0.2%
医師	22	0.2%
獣医	8	0.1%
薬剤師	5	0.1%
看護師	348	3.9%
医療技師や衛生士	385	4.3%
理学療法士や作業療法士、言語聴覚士	11	0.1%
栄養士や管理栄養士	602	6.7%
社会福祉士	191	2.1%
ホームヘルパー	68	0.8%
保育士	2336	25.9%
弁護士や裁判官	3	0.0%
会計士や税理士	10	0.1%
幼稚園の教員	875	9.7%
小学校の教員	114	1.3%
中学校や高校の教員	91	1.0%
大学や短大の教員	7	0.1%
その他学校の教員	20	0.2%
学校外の各種の教員職	27	0.3%
学校や大学の職員	13	0.1%
学校長や学校経営者	4	0.0%
学校のカウンセラー	15	0.2%
臨床心理士	20	0.2%
聖職者	16	0.2%
芸術家	97	1.1%
インテリアデザイナー	52	0.6%
作家やジャーナリスト	30	0.3%
演奏家や作曲家	36	0.4%
俳優や演出家	99	1.1%
国や地方自治体の議員	1	0.0%
国家公務員	32	0.4%
地方公務員	97	1.1%
自衛隊員	4	0.0%
警察官	14	0.2%
消防士	5	0.1%
パイロットや客室乗務員	82	0.9%
海外勤務者	108	1.2%
ベンチャービジネス	4	0.0%
科学研究者	3	0.0%
旅行や観光業の仕事	200	2.2%
新聞や放送関係の仕事	30	0.3%
インターネット関係の仕事	36	0.4%
企業や団体の事務職	306	3.4%
企業や団体の経営者	37	0.4%
小売店の自営業者	52	0.6%
販売員や卸売業者	263	2.9%
農林水産業の従事者	7	0.1%
製造業の技能工	100	1.1%
専業主婦	210	2.3%
フリーター	60	0.7%
その他	818	9.1%
まだ決めていない	1007	11.1%
合計	9032	100.0%
無回答	605	

[29]あなたは将来、どのような職業やキャリアに進みたいですか。
(上位10位まで)

	度数	パーセント
保育士	2336	25.9%
栄養士や管理栄養士	875	9.7%
幼稚園の教員	602	6.7%
看護師	385	4.3%
企業や団体の事務職	348	3.9%
販売員や卸売業者	306	3.4%
旅行や観光業の仕事	263	2.9%
専業主婦	210	2.3%
社会福祉士	200	2.2%
海外勤務者	191	2.1%
その他(選択肢内の職業を志望)	1491	16.5%
その他(選択肢外の職業を志望)	818	9.1%
まだ決めていない	1007	11.1%
合計	9032	100.0%
無回答	605	

[30]短大卒業後のキャリアを考えると、次のことがらはどの程度重要ですか。

	まったく 重要でない	あまり 重要でない	少し 重要	とても 重要	合計	無回答
社会を変えるための仕事	1195 12.8%	3621 38.7%	3581 38.3%	949 10.2%	9346 100.0%	291
高収入の可能性	504 5.4%	2250 24.0%	4790 51.2%	1812 19.4%	9356 100.0%	281
世間的な知名度や地位	1087 11.6%	3918 41.9%	3506 37.5%	833 8.9%	9344 100.0%	293
生活の安定や保証	187 2.0%	794 8.5%	3974 42.5%	4390 47.0%	9345 100.0%	292
創造性や独創性	776 8.3%	3001 32.1%	3971 42.5%	1597 17.1%	9345 100.0%	292
自己を表現する仕事	592 6.3%	2435 26.1%	4257 45.6%	2059 22.0%	9343 100.0%	294
自由な時間	270 2.9%	1267 13.6%	4382 46.9%	3431 36.7%	9350 100.0%	287
リーダーシップを発揮できる可能性	1233 13.2%	3949 42.3%	3272 35.0%	889 9.5%	9343 100.0%	294
さまざまな領域の仕事をする可能性	960 10.3%	3446 36.9%	3738 40.1%	1185 12.7%	9329 100.0%	308

[31]あなたは、本学にどれくらい満足していますか。(「わからない」を欠損値扱い)

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	合計	(欠損値)	
							わからない	無回答
共通教育あるいは教養教育の授業	251 2.9%	693 7.9%	4138 47.3%	3028 34.6%	630 7.2%	8740 100.0%	587	310
専門科目の授業	205 2.3%	565 6.3%	3187 35.4%	3906 43.4%	1144 12.7%	9007 100.0%	333	297
1年次生を対象とした教育プログラム内容	287 3.6%	711 8.8%	4240 52.6%	2243 27.8%	574 7.1%	8055 100.0%	1251	331
授業の全体的な質	324 3.6%	1110 12.4%	4175 46.5%	2867 31.9%	511 5.7%	8987 100.0%	343	307
日常生活と授業の内容との関連	214 2.4%	699 7.9%	4486 50.6%	2942 33.2%	526 5.9%	8867 100.0%	455	315
キャリア計画に対する授業内容の有効性	226 2.6%	708 8.1%	4178 47.9%	2924 33.6%	679 7.8%	8715 100.0%	612	310
1つの授業を履修する学生数	203 2.3%	671 7.7%	4288 49.0%	2994 34.2%	596 6.8%	8752 100.0%	580	305
教員と話をする機会	242 2.7%	768 8.7%	4661 52.8%	2542 28.8%	613 6.9%	8826 100.0%	499	312
教職員による学生支援体制	300 3.5%	832 9.7%	4682 54.8%	2277 26.6%	456 5.3%	8547 100.0%	773	317
個人別の学習指導や援助	321 3.7%	1011 11.8%	4790 55.9%	2003 23.4%	438 5.1%	8563 100.0%	766	308
履修や成績に対するアドバイス	322 3.7%	1025 11.8%	4601 52.8%	2277 26.1%	490 5.6%	8715 100.0%	615	307
他の学生と話をする機会	226 2.5%	560 6.3%	3488 39.2%	3252 36.6%	1368 15.4%	8894 100.0%	432	311
学生同士の一体感	301 3.4%	691 7.8%	3890 44.0%	2872 32.5%	1081 12.2%	8835 100.0%	491	311
学生交流の機会	276 3.1%	707 8.1%	4194 47.8%	2703 30.8%	900 10.3%	8780 100.0%	541	316
多様な考え方を認め合う雰囲気	277 3.2%	706 8.1%	4422 50.7%	2591 29.7%	723 8.3%	8719 100.0%	596	322
短大全体の学生数	221 2.6%	563 6.5%	4357 50.5%	2785 32.3%	701 8.1%	8627 100.0%	695	315
短大での経験全般について	248 2.8%	602 6.9%	3979 45.5%	2990 34.2%	925 10.6%	8744 100.0%	574	319

[31]あなたは、本学にどれくらい満足していますか。(「わからない」を有効値扱い)

	とても 不満	不満	どちらでも ない	満足	とても 満足	合計	わからない	無回答
専門科目の授業	205 2.2%	565 6.0%	3187 34.1%	3906 41.8%	1144 12.2%	333 3.6%	9340 100.0%	297
1年次生を対象とした教育プログラム内容	287 3.1%	711 7.6%	4240 45.6%	2243 24.1%	574 6.2%	1251 13.4%	9306 100.0%	331
授業の全体的な質	324 3.5%	1110 11.9%	4175 44.7%	2867 30.7%	511 5.5%	343 3.7%	9330 100.0%	307
日常生活と授業の内容との関連	214 2.3%	699 7.5%	4486 48.1%	2942 31.6%	526 5.6%	455 4.9%	9322 100.0%	315
キャリア計画に対する授業内容の有効性	226 2.4%	708 7.6%	4178 44.8%	2924 31.3%	679 7.3%	612 6.6%	9327 100.0%	310
1つの授業を履修する学生数	203 2.2%	671 7.2%	4288 45.9%	2994 32.1%	596 6.4%	580 6.2%	9332 100.0%	305
教員と話をする機会	242 2.6%	768 8.2%	4661 50.0%	2542 27.3%	613 6.6%	499 5.4%	9325 100.0%	312
教職員による学生支援体制	300 3.2%	832 8.9%	4682 50.2%	2277 24.4%	456 4.9%	773 8.3%	9320 100.0%	317
個人別の学習指導や援助	321 3.4%	1011 10.8%	4790 51.3%	2003 21.5%	438 4.7%	766 8.2%	9329 100.0%	308
履修や成績に対するアドバイス	322 3.5%	1025 11.0%	4601 49.3%	2277 24.4%	490 5.3%	615 6.6%	9330 100.0%	307
他の学生と話をする機会	226 2.4%	560 6.0%	3488 37.4%	3252 34.9%	1368 14.7%	432 4.6%	9326 100.0%	311
学生同士の一体感	301 3.2%	691 7.4%	3890 41.7%	2872 30.8%	1081 11.6%	491 5.3%	9326 100.0%	311
学生交流の機会	276 3.0%	707 7.6%	4194 45.0%	2703 29.0%	900 9.7%	541 5.8%	9321 100.0%	316
多様な考え方を認め合う雰囲気	277 3.0%	706 7.6%	4422 47.5%	2591 27.8%	723 7.8%	596 6.4%	9315 100.0%	322
短大全体の学生数	221 2.4%	563 6.0%	4357 46.7%	2785 29.9%	701 7.5%	695 7.5%	9322 100.0%	315
短大での経験全般について	248 2.7%	602 6.5%	3979 42.7%	2990 32.1%	925 9.9%	574 6.2%	9318 100.0%	319

[32]あなたが志望した大学や短大の中で、本学は何番目でしたか。

	度数	パーセント
第1志望	7059	75.7%
第2志望以下	2269	24.3%
合計	9328	100.0%
無回答	309	

[33]あなたはどのような入学試験を受けて、本学に入学しましたか。

	度数	パーセント
一般入試	1244	13.4%
一般と大学入試センター試験の併用型	136	1.5%
大学入試センター試験利用型	150	1.6%
内部進学	354	3.8%
指定校推薦	3793	40.8%
スポーツや課外活動の推薦	103	1.1%
公募推薦	1503	16.2%
AO選考	1632	17.6%
留学生入試	24	0.3%
社会人入試	220	2.4%
その他の試験	139	1.5%
合計	9298	100.0%
無回答	339	

[33]あなたはどのような入学試験を受けて、本学に入学しましたか。

(入試方式の3分類)

	度数	パーセント
一般入試	1530	16.5%
各種推薦入試	7385	79.4%
その他	383	4.1%

※

【一般入試】…一般入試＋一般入試と大学入試センター試験の併用型入試
＋大学入試センター試験（単独）利用型入試

【各種推薦入試】…内部進学（学内付属校からの進学）＋指定校推薦＋公募推薦＋AO選考

【その他】…留学生入試＋社会人入試＋その他の試験（帰国子女入試など）

[34]あなたが本学の受験を決めたのはいつですか。

	度数	パーセント
高校入学前	420	4.6%
高校1年生	386	4.3%
高校2年生	898	9.9%
高校3年生(4月～6月)	1675	18.5%
高校3年生(7月～8月)	2166	23.9%
高校3年生(9月～10月)	2067	22.9%
高校3年生(12月から1月中旬)	758	8.4%
大学入試センター試験終了後	412	4.6%
浪人生時代	263	2.9%
合計	9045	100.0%
無回答	592	

[35-1]あなたのご家族の中に、大学や短大を卒業した人はいらっしゃいますか。

	度数	パーセント
はい	4337	46.9%
いいえ	4468	48.3%
その他	441	4.8%
合計	9246	100.0%
無回答	391	

[35-2]ご家族のうちで大学や短大を卒業された方は、次の内どなたですか

家族内で大学・短大を卒業した方(父親)	度数	パーセント
あてはまる	2261	52.1%
あてはまらない	2076	47.9%
合計	4337	100.0%

家族内で大学・短大を卒業した方(母親)	度数	パーセント
あてはまる	2326	53.6%
あてはまらない	2011	46.4%
合計	4337	100.0%

家族内で大学・短大を卒業した方(兄弟)	度数	パーセント
あてはまる	1058	24.4%
あてはまらない	3279	75.6%
合計	4337	100.0%

家族内で大学・短大を卒業した方(姉妹)	度数	パーセント
あてはまる	1127	26.0%
あてはまらない	3210	74.0%
合計	4337	100.0%

家族内で大学・短大を卒業した方(その他)	度数	パーセント
あてはまる	239	5.5%
あてはまらない	4098	94.5%
合計	4337	100.0%

[36]あなたの学生生活は充実していますか。

	度数	パーセント
充実している	2781	30.1%
ある程度充実している	3400	36.8%
普通である	1667	18.0%
あまり充実していない	887	9.6%
充実していない	501	5.4%
合計	9236	100.0%
無回答	401	

[37]もし大学や短大を選び直せたら、
あなたはもう一度、本学へ進学しますか。

	度数	パーセント
かならず進学する	780	8.4%
おそらく進学する	2501	27.1%
おそらく進学しない	1983	21.5%
絶対に進学しない	1439	15.6%
わからない	2534	27.4%
合計	9237	100.0%
無回答	400	

第3部 参加校の意見

本調査では、データ入力作業等の整理が終了した平成24年3月に調査参加短期大学ごとの個別集計結果を提供、同年8月中に全体集計結果を中間報告としてまとめ、8月31日付で調査参加短期大学に送付した。中間報告にあわせ、以下のアンケートを同封して調査への意見の提出を依頼した。

「短大生調査2011年（JJCSS2011）」についてのアンケート

1.調査項目について

1-1.調査項目が貴学の学生への質問として

- 適切であった
- 大旨適切であった
- あまり適切でなかった
- 不適切であった

1-2.適切でなかった、あるいは改善を要すると感じた項目について、具体的にご指摘下さい。

2.実施時期について

2-1.実施期間（平成23年11月24日～12月22日）は

- 適切であった
- 大旨適切であった
- あまり適切ではなかった
- まったく適切でなかった

2-2.適切でなかったとお答えの場合、その理由をお書き下さい。

3.実施方法について、ご意見等をお書き下さい。

4.平成24年3月初旬にお届けしたデータについて

- 4-1.データをどの様に活用されましたか。お教えてください。
- 4-2.その他、データについて気が付かれたことがあれば、何でもお書きください。

5.調査全体集計結果・中間報告書について、この中間報告をどのように活用されるかについて、お書き下さい。

6. 本短大生調査全般について

6-1.本短大生調査への参加は

- 初めてである
- 2回目である
- 3回目である
- 4回目である

6-2.これまでに既に1回ないし複数回ご参加いただいている場合、「本校では短大生調査をこのように活用した（活用している）」あるいは「本短大生調査がこのような役に立った」という具体例があればお示し下さい。

6-3.本協会のウェブサイトには短大生調査を基にした学術研究の成果が掲載されてい

ますが、ご存知ですか。

- いいえ、全く知らなかった
- 知ってはいるが、参照したことがない
- 参照したことがある
- よく参照している

6-4.本短大生調査に対し、今後どのようなことを期待されますか。

7.その他

7-1.現在は設問の項目の順にグラフを並べておりますが、集計結果の分析のような数値の大きい順に並べる等のグラフの並べ方(掲載の順番)やデータの表示形式についてのご希望はありますか。(例、設問 26 で「とても重要」が多い順に並んでいた方がデータが見やすい等)

7-2.その他ご意見、ご感想等をお書き下さい。

その結果、調査参加校 34 校中 20 校からの回答を得た。下記は、そのアンケートの集計結果である。

[アンケート集計結果]

1-1.調査項目が貴学の学生への質問として

- ① 適切であった 8校
- ② 大旨適切であった 10校
- ③ あまり適切でなかった 2校
- ④ 不適切であった 0校
- ⑤ 無回答 0校

1-2.適切でなかった、あるいは改善を要すると感じた項目について、具体的にご指摘下さい

○項目数が多い。

○項目は大変有意義なものが多く、活用させていただきたいと思います。

更に

- ・学びたい分野は入学時にはっきり決まっていたか。迷いは無かったか。
- ・学びたい分野は入学後に変わったか。変わった場合、時期はいつか。転学部、転部、退学、卒業後の四年制大学(他分野)への編入は考えたことがあるか

などの質問があるとありがたいです。(退学理由に「進路変更」が多いため、また、入学時から本学の分野を学びたいという意志の強い学生がどのくらい多いか知るため)

また、四大でなく短大を志望した理由(本学の志望理由ではなく、短大全般)も聞きたいと思います。

○設問 [29] 職業・キャリアの進路については、統計資料が僅かということもあるかと存じますが、男女別比率の統計資料が欲しかったところです。

○社会人学生に応じた質問項目の検討が必要な部分がある。特に、介護福祉士資格取得に

関しては離職者訓練制度に基づく訓練生を学生として受け入れているが、ボランティアやアルバイト、就職活動についての学生生活に制約があり、アンケートに答えにくいとの訴えから調査対象からはずしている。しかし、対象者が該当学科全学生の4割弱を占めることもあり、できれば調査に含めて意向を確認したいと考えている。

- 全体を通して設問数が多いので、時間がかかりすぎると思います。
- 「スピリチュアリティ（精神性）」など、言葉の意味が伝わりづらいと思います。
- 設問〔20〕であるような、「信仰心」などは答えづらいのではないかと思います。

2-1.実施時期について、実施期間（平成23年11月24日～12月22日）は

- ① 適切であった 7校
- ② 大旨適切であった 10校
- ③ あまり適切でなかった 3校
- ④ まったく適切でなかった 0校
- ⑤ 無回答 0校

2-2.適切でなかったとお答えの場合、その理由をお書き下さい。

- 短大2年の後期(9月～)の時期には、学生がひとつの教室に集まる機会がほとんど無いため、前期(~7月)に実施していただくと、より回収率が高くなると思います。
- 後半になると授業日程に余裕がなくなってくるので、もう一ヶ月ほど早めの実施をご検討頂けると有難いです。
- 10月下旬から11月上旬頃の、後期履修届が一段落し、就職活動へ歩みだすころがよいのでは。
- 2回生は結果がわかるころに卒業してしまうため、学生理解という点では、もう少し早い時期でも良いと思います。

3.実施方法について、ご意見等をお書き下さい。

- 従来通りで良いと思います。
- 特に問題はありませんでした。本学の回収率は90%超ですが、適当と判断しております。
- 実施の仕方が教員の講義を活用して行ったのですが、時間がかかったため、別の方法で、回収率も高くすることができたらいいと思います。
- 本学では、MH（ミーティングアワー）という時間に、各クラスで実施したのですが、設問数が多いため、予想以上の時間がかかってしまいました。学生の反応を見ていまして、中盤以降は少し疲れた様子で、真剣に回答する学生が少なかったように思います。

4-1.平成24年3月初旬にお届けしたデータについてデータをどの様に活用されましたか。

- 自己点検・評価の資料とした。
- 学長はじめ学科長関係者に回覧。
- FD検討会で、資料として使用。
- 全国短大の動向認識。

- 本学において実施している教職員の全学研修会において、データを基に問題点をチェックし、その改善案を検討した。また、一学科では、このデータを基により詳しいアンケート調査を実施した。
- 現時点で未活用です。
- 自己点検評価に利用している。全教職員が見られる共有ファイルの中にデータを入れてあるので、いつでも自由に見ることができる。
- 経年比較、及び他大学との回答傾向に差異が見られるかを知る目的で利用しました。
- 活用について
 - ①学生の生活背景や学習時間、授業やボランティアへの参加状況等を参考に生活指導や学習指導に活用しています。
 - ②進学理由は広報活動に参考にしています。
 - ③本学への満足度や入学時からの変化で「大きく減った」と回答した項目については、教員の関わり方等を含めてFD活動として取り組んでいます
- 教育改革の検討時に利用しました。
- 本学学生の実態について、委員会で報告したものの十分な活用には至っていない状況です。
- 各学科にデータを配布、各学科内でデータを分析し、自己点検資料として利用。
- 担当部署、担当教員で供覧。
- 学内で回覧して、教職員に対する本校短大生の現状把握の周知に利用した。
- 学内自己点検・評価委員会、FD・SD実施委員会および教務委員会では、調査データの検討を行い、本学の学生がどの程度現状に満足しているのか、また、学生の学習することの動機付けのための課題発見に活用した。
- 本学で独自に実施している「授業に関するアンケート調査」とデータを比較して活用した（予習・復習の時間など）。
- これらの検討データは、本学FD・SDで報告・討論し、全教職員の間で共通の認識を持つために活用した。
- 在学生の状況把握の為、全教職員に情報共有を行った。
- 学生募集活動の参考資料(内部)とした。
- 「設問 [34] 受験を決めた時期」と「設問 [37] もう一度本学へ進学するか」を、入試委員会や就職委員会等での話題とした。
- 現時点では、本学学生の実態を把握することにとどまっていますが、今後、来年度に予定している第三者評価に向けて、今年度の自己点検評価、来年度の第三者評価における、本学学生の実態を知るための参考資料として活用する予定です。その際には、本学の状況だけではなく、参加校全体の平均的な値とも比較できるので、より明確に本学の状況を知ることができると考えています。
- 学生の学習時間について、新学期からのオリエンテーション、保護者懇談会、非常勤講師との教員懇談会で示し、今後の学習支援にむけた議論、依頼に活用した。
- 前任者からの引継ぎの時に学生理解のために活用しました。

4-2.その他、データについて気が付かれたことがあれば、何でもお書きください。

- 設問 16 の選択肢「4 人文」の区分け内に「図書司書」、選択肢「10 芸術」の区分けに「演劇」を追加して欲しい。
- 比較対象となる全体データがあれば良いと思います。
- グラフ化、並べ替え等の 1 次加工までして頂けると有難いです。
- 統計から見たコメントが付くなど 2 次加工があると更に有難いです。
- 対策、事例紹介、アドバイスなど 3 次加工サービスがあれば最高です。
- もし可能なようであれば、保健衛生、教育等、専攻分野をもう少し細かく設定して頂けるとありがたいです。
- 特段ありません。が、男女比較が充実すればと望みます。

5.調査全体集計結果・中間報告書について、この中間報告をどのように活用されるかについて、お書き下さい。

- 一般的な学生の状況と本学の状況を比較することにより、本学の特徴を把握し、学生への指導に役立てたい。
- 学長はじめ学科長関係者に回覧
- 検討中
- 本学学生の意識調査など
- 本学自己点検委員会で検討し、各部学科、全学研修において発表する。
- 今回、(中間報告書で)全体の集計が示されたので以下のような比較検討をすることが出来ました。
 - ・本学の特徴を客観的に捉えることが出来ました。
 - ・強み、弱みの分析のほか、課題も得られると考えます。
 - ・学内の委員会等へかける準備ができます。
- 全教員に回覧し、本学の自己点検等に活用している。
- 活用していきたいと思います
- 教育改革の検討時に利用させていただきます。
- 本学の学生と全国的な学生の意識などを比較し、今後学生支援や指導に生かしていきたい。
- 学内教務委員会において、内容概略説明の上、各学科・コースの主任教員に配布。
- 各学科ワークにて、全体集計結果と自校データを比較分析し、必要のあるものには対応策を検討する。
- 担当部署、担当教員で供覧
- 本学分のデータと全国データの比較を行い、本学の課題発見に活用した。
- 現在学生支援部において、本学の現状を照らして分析中、活用については、検討中である。
- 学内各委員会(入試委員会や就職委員会等)において活用させていただきます。
- 先の質問とも重複しますが、本学の状況と全体的な状況を比較して、本学の学生の実態を明らかにしたいと思っています。
- 活用について

- ① 自己点検内容の評価指標の一つとして、活用している。
 - ② 結果については、教授会において報告し、全教員に概要を説明し、今後の活用を促す。
 - ③ その上で、教育支援、学生生活支援、入学者選抜等の諸活動における基礎情報として、学科、関連事務部局での活用をすすめていく。
- 自己点検評価に活用していきたいと考えています。また、全国の短大と本学との比較を行うことで、本学の学生理解につとめることができるのではないかと思います。

6-1.本短大生調査全般について、本短大生調査への参加は

- ① 初めてである 1 1 校
- ② 2 回目である 3 校
- ③ 3 回目である 4 校
- ④ 4 回目である 1 校
- ⑤ 無回答 1 校

6-2.これまでに既に 1 回ないし複数回ご参加いただいている場合、「本校では短大生調査をこのように活用した（活用している）」あるいは「本短大生調査がこのような役に立った」という具体例があればお示し下さい。

- ベンチマークの資料として役立った。
- オリエンテーションで話す内容の参考とした。
- 全国規模の集計結果を本学の結果と比較検討し、教育活動改善のために役立った。
- 授業外での学習時間等、他大学との差異を知るのに役立ちました。
- カリキュラム検討時に活用しました。
- アンケート4の項でも記述したように、本学の学生の学習成果の向上のために、今後何が課題となるのかという課題発見に活用している。
- 本校学生の、自学・自習を促すための方策を考える基礎データとして活用した。
- 本校の授業の質については、独自の「授業に関するアンケート調査」のデータと本短大生調査 2011 年との両者の関連部分を比較することで、学生が教員からの支援・提供をどの様に評価し、授業を全体的にどの様に感じ取っているのかが見えてきた。
- 上記のように、学科が主催する保護者、非常勤講師への懇談時に、他大学の状況を踏まえた本学の特性、また個々の学生の学習状況や課題を提示することで説得力のある説明をすることができ、より深い議論につながった。

6-3.本協会のウェブサイトには短大生調査を基にした学術研究の成果が掲載されていますが、ご存知ですか。

- ① いいえ、全く知らなかった 8 校
- ② 知ってはいるが、参照したことがない 6 校
- ③ 参照したことがある 6 校
- ④ よく参照している 0 校
- ⑤ 無回答 0 校

6-4.本短大生調査に対し、今後どのようなことを期待されますか。

- 4年制の大学ではなく、短大を選んだ理由は、今後の短大の行方・あり方に大きなウェイトを占めると思われるので、その点についての調査が大事ではないでしょうか。
- 継続して調査して頂き、年度による学生の学業や生活等、動向を比較したデータを作成して頂きたい。
- 成長度や社会貢献のような、短期大学が社会的評価を上げることにつながる「成果」の客観的指標の開発を期待致します。
- 調査協力校の顔が見えず、母集団がよくわからずに参加しています。地方の女子のみの少人数の短大が、どの程度参加しているのか、母集団の基礎資料が知りたいと思います。
- 質問内容は良いと思いますが、質問量が多いため、質問の精選等をしてくださることを期待します。
- 短大と四大の比較。
- 退学者対策に関連するような調査項目(例えば、退学を考えたことがあるか、その理由等)を設けて頂けるとありがたいです。
- この調査を継続することで、進学してくる学生の考えている短大のイメージと短大教員が描いている短大のイメージのギャップを解消できれば、少しでも教育の質向上に資するのではないかと期待している。短大の生き残り作戦を考えるヒントを見出したいものである。
- 各学校の調査結果活用事例を公表頂けると幸いです。
- 短期大学生の生の声を反映して、四年制大学や専門学校との棲み分けの主要資料となることを希望します。
- このような調査はとても重要だと考えられます。今後も継続して実施されて、経年変化を追っていくなど、さらなる活用に期待したいと思います。
- 回生ごとのデータを出してくださると活用の幅が広がるのではないかと思います。例えば、2回生の昨年度と今年度のデータがわかれば、そこから意識の変化などがわかるようになると思います。

7-1.現在は設問の項目の順にグラフを並べておりますが、集計結果の分析のような数値の大きい順に並べる等のグラフの並べ方(掲載の順番)やデータの表示形式についてのご希望はありますか。(例、設問 26 で「とても重要」が多い順に並んでいた方がデータが見やすい等)

- 送られてきた資料がモノクロ(白黒)であると、円グラフの色分け部分が、どれがどれだかわからない(たとえば P16 の円グラフは多くの色分けがされていると思われるが、まったく区別がつかない)ので、カラー印刷にしていただけるとありがたいです。
- Q12 や Q15 のように、満足・不満足、あてはまる・あてはまらないの2つの属性に分けられるものは、その「差」だけを取り出して多い順に並べることで把握できるかもしれないと思いました。今後、もし時系列でデータを積んでいく時に、比較や評価がし易くなりそうに感じました。
- 従来通りで良いと思います。
- 例示のように、数値の大きい順にグラフを並べた方が全体的にすっきり見え、わかりや

すいと思います。

- グラフはカラーの方が見やすいのではないかと。(Web版だけでも)
- 例にあるように「とても重要」が多い順に並んだデータも見たいこともあるので、できれば両方のグラフが記載されていると一層参照しやすいものとなる。
- 表示形式については、特にご要望はございませんが、各項目の最高値や最低値が太文字や斜字化すると有難いと思います。
- データの活用に関しては、全体の集計に加え、学科の分野ごとに特性が示されると活用につなげやすい(例：学修成果への評価やキャリア支援に関する事項など)。細かな属性等による分析は別として、データ活用への要望を分析結果の公表に生かしていただきたい。

7-2.その他ご意見、ご感想等をお書き下さい。

- 設問 29 の職業の選択肢に「介護福祉士」がありません。社会福祉士やホームヘルパー同様に、介護福祉士も加えていただければと思います。
- 教育改善に役立つ貴重な資料をご送付頂きありがとうございます。
- 初めて参加させて頂き、有難うございました。データ処理の全体的なスケジュールができておらず、この中間報告書を頂きまして何とかデータ活用したいと思います。
- 3年間継続参加して活用方法を考えたい。
- 全体集計結果と自校データを比較することにより、「入学時からの能力、知識の変化」他、いくつかの項目において、全般的に肯定的評価が平均より低いことがわかり大変参考になりました。
- 多大な労力と時間を掛けている調査に基づくデータであり、本校独自に実施している「授業に関するアンケート調査」と一部分ではあるが比較できる点で貴重な存在であり、どこに学生の本音が表現されているのかを知るヒントが得られるので、有効に活用させていただいた。
- 貴重な調査、ありがとうございます。今後とも、よろしく願いいたします。
- 学習や学生生活について、調査では多岐にわたる事項を質問するわけですが、学生が多様化してきていると言われてきている中で、質問結果のデータを踏まえてどんな学生像が見出されるのかが気になるところです。この点については、基礎集計だけではなく、踏み込んだ分析結果を示すことで、データ活用の幅が広がると思います。

このアンケートの集計結果によれば、今回の学生調査はその質問内容において全体としておおむね適切であったと判断し得る。ただし、調査項目については、その精選についての要望とさらに踏み込んだ内容の要望等があり、現在は全 38 項目の設問であるが、今一度検討することが必要な面もあると言える。

次に、調査の実施時期や実施方法についてもおおむね適切であったという回答がほとんどである。しかしながら、短期大学 2 年生の就職活動や卒業準備等の時期を考慮すると、実施時期については若干の幅を持たせることも今後検討すべき課題である。特に実施に際して、予想以上に時間がかかったという意見も昨年に引き続いて散見されることから、今後の課題の 1 つとして検討したい。

さらに、2011年 JJCSS 調査の自校のデータおよび全体集計結果・中間報告書の活用方法としては、自己点検評価の資料、FD 活動、教職員の研修の資料等の様々な形での回答が得られた。具体的には、全体集計結果と比較することによる自身の短期大学の特徴や実態の把握に用いているという回答が多くあり、本調査の意図が達成されていることの確認ができた。その中でも調査への継続的な参加をしている短期大学の活用実績としては、学生募集業務、学生生活指導、あるいは学生へのサービスの改善等の他、他大学との比較のベンチマークといった活用実績が特徴的である。複数年のデータの経年変化から、入学志願者や在学生の傾向を見ることで短期・中期の将来計画策定への利用に役立てようとした試みや独自に行っている学生調査との比較は、継続的な調査参加によって得られたデータの有効な活用方法の1つとして考えられる。このように、比較検討的な活用と閲覧資料的な活用の2つに分類することができ、各短期大学の置かれた状況によってデータの活用の仕方は様々であることがこのアンケートから確認することができる。

以上のことから、本調査の今後については、①調査内容と実施方法については今回のものを基本としつつ、分量や使用語句等の検討を推し進める必要がある、②参加短期大学からの調査への要望には、より柔軟に対応できるように努めることが必要である、と考えている。

JCIRP 短期大学学生調査チーム メンバー一覧(○:研究総括)

氏名	所属機関/職名
○山田 礼子	同志社大学/教授
相原 総一郎	大阪薫英女子短期大学/教授
江原 昭博	同志社大学 学習支援・教育開発センター/専門調査員
森 利枝	大学評価・学位授与機構/准教授

研究協力者

氏名	所属機関/職名
堺 完	同志社大学大学院 社会学研究科 博士後期課程 [執筆担当:設問 21~37]
山崎 慎一	桜美林大学 総合研究機構/助手 [執筆担当:設問 1~20]

調査研究委員会 委員一覧(○:委員長)

氏名	所属機関/職名
○舘 昭	桜美林大学大学院/教授
北村 久美子	北村学園 こだま幼稚園/園長
草原 克豪	拓殖大学/名誉教授
小林 雅之	東京大学 大学総合教育研究センター/教授
清水 一彦	筑波大学/理事・副学長
田中 義郎	桜美林大学/教授
早田 幸政	大阪大学 評価・情報分析室/教授
春山 志郎	東京工業大学/名誉教授
溝上 智恵子	筑波大学/教授
藪 敏晴	佐賀女子短期大学/教授
山田 礼子	同志社大学/教授
吉本 圭一	九州大学大学院/教授